

宮崎医大整形外科

同門会誌

第 11 号

平成 11 年 12 月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



平成11年11月27日 於：ホテルプラザ宮崎



平成11年度 宮崎医科大学整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成11年5月29日於：みやざき会館



会 長
河 野 雅 行

ご 挨拶

本年は同門会員で在られた3名の先生方を喪ってしまいました。深野木正人先生、横山正昭先生、後藤一成先生の諸先生方です。何れの先生方におかれましても、生前の御友誼と同門会への一方ならぬ御協力に対し感謝申し上げます。有り難うございました。何時かは皆が迎らねばならない道程ではありますが、大変寂しい思いがします。皆様未だお若く今後の御活躍が期待されていたところであり、さらに私共も御指導願うべき事が多々ありましたのに、誠に残念の極みです。御遺族の悲しみに衷心よりお悔み申し上げますと共に故人となられた先生方のご冥福をお祈りいたします。合掌。

本年は異常気象・洪水・地震や人為的な事件等の天変地異の多発した年でもありました。海外では相変わらず日本人を巻き込んだ誘拐事件が発生しており「日本人の危機管理の欠如」と言う前回の教訓が全く活かされていません。終いには日本人として最も忌むべき事柄の一つである核物質による臨界事故まで発生しております。事故は仕方がないと諦めてしまうには余りにも大き過ぎる問題です。捜査の進展により明らかな人為的過失の積み重ねであると断定された様です。核エネルギーは使用方法によっては大変危険なものです。上手く利用出来れば大変効率の良いエネルギー源です。核エネルギーの利用については様々の意見は有りますが、人間がその存在と効力を知ってしまった以上、21世紀にはその有効利用を除いてエネルギー問題の解決は考えられない段階にまで至っております。今回の事故の原因は唯々人間の操作ミスに尽きます。むしろミスと言うより犯罪と言ったほうが適当な事例です。しかし今回の如き低次元の原因による事例で原子力の平和利用が滞るのは残念です。人間の知恵で折角コント

ロールが出来つつあるエネルギーを捨て去るのはもったいない気がします。これは単なる油断やミスでも重大な結果を招くことになる教訓とも言えます。今回のニュースは核設備にのみ限った例では無く、社会全般に起こりうる事でもあります。

我身を振り返って観ますと、医療に携わる者の一人として日頃の煩雑さと、さらには矛盾するようですが単調な仕事に対する慣れと馴れにより、原点を見失っているような面が有りはしないか自省すること頻です。近日中にカルテ開示がされますと、様々なレベルの人に我々医師の専門的な記録であるカルテを閲覧させる義務が生じますので、誤解や曲解の元に医療機関側も大変煩わしい思いをさせられる場合が多くなります。情報開示を悪用されますと最悪の場合は訴訟等にまで巻き込まれる場合も危惧されています。大変不愉快ですが世の中が情報開示の方向に動いている限りではやむを得ない状況です。今後はカルテは人に観せる為に記録するとの前提の元に、今まで以上に分かり易く記載する必要があり、ともしれば省略しがちであった基本的な事項の記録が重要となると思われます。日本医師会でもカルテ開示を拒否すれば世論の動向から観て、法制化・強制化される恐れが有るので、正当な相手であれば積極的にカルテを開示するように指導しております。医師会の立場からも御理解・御協力を宜しくお願いいたします。

一方本年は新たに公文崇詞先生、後藤英一先生、増田寛先生、魏國雄先生の4名の新規加入の先生方をお迎えしました。歓迎いたします。今後は仲間としてのおつき合いをお願いいたします。

さらに蛭原啓文先生、黒木隆男先生が御開業されました。医療最前線でのますますの御活躍を期待申し上げます。

今後共皆様方におかれましては健康に留意していただき、更なる御協力の元に現状即時対応可能な同門会運営が出来ますように、重ねて宜しくお願いいたします。

巻 頭 言



教授 田 島 直 也

—国立大の改革と整形外科の将来—

国の行政改革が国立大、大学附属病院にもついに波及してきそうな情勢である。

根幹の1つは平成13年から10年間で国家公務員の25%削減が決定している事、もう1つは国立大学の独立行政法人化は少なくとも平成15年までに結論を出すという事である。

宮崎医科大でも今年になり種々の動きが出てきている。まず、臨床研修方式が、今年度入局者より選択性のストレート方式からローテイト方式へと病院長の下に義務化された事である。これは、厚生省から再三指導が行われて来たものであり、基本的には臨床能力、プライマリの向上を目指すとされている。具体的に本学では、1年目は希望診療科で研修し、2年目に複数の診療科をローテイトすることになっている。しかし、現在のところ、全国医科大学の全てが行っているものではなく、実行するからにはきちんとルールを作り vision をもってプログラムを作成すべきである。

次に、今春2月から3月にかけて新外来棟構想計画が持ち上がった。これは、既に旭川医大、愛媛大等で新診療棟が具体化しつつあるという事で本学でも準備を開始したものである。新案では、外来は臓器別という事で、計画されている。さらに、7月から8月にかけて診療体制、経営改善、臨床教育、地域医療、高度先進医療等の5年後の目標とその行動計画の作業が進められている。

これらを総合すると国立大附属病院にも大きな変化がありそうで独立行政法人化も現実性を持ちそうな気配である。

さて、振り返って整形外科をみると生き残りをかけて検討すべき問題が山積している。全国的に整形外科の入局者は多く中央の大学によっては毎年20数名の入局があるときく。一方、整形外科の専門領域が次第に狭められつつある感がある。このことは余りに細分化し、それぞれの専門化になりすぎ、同じ整形外科でもそれ以外の分野はおろそかになった結果である。すでにリウマチ科とり

ハビリテーション科は厚生省から診療科として認められているし、脊椎、脊髄、末梢神経も脳神経外科と、四肢再建手術も形成外科と競合するのではないかと
思われる。さらに骨粗鬆症も他科からのアプローチが種々行われている。

整形外科も細分化された専門バカにならず整形外科全体をカバーできる医師
になる必要がある。自分だけは別である、自分だけは許されるという考えがそ
もそも間違いである。医師過剰といわれる昨今、医師も生き残りを真剣に考え
るべきである。世の中に必要とされないもの、実力がないものは自然淘汰され
るのである。



目 次

ご 挨拶	会 長 河 野 雅 行	
巻 頭 言	教 授 田 島 直 也	
同門会幹事報告(平成11年度を振り返って)	岡 田 光 司	1
医局長としてのこの1年	黒 木 龍 二	2
特 別 寄 稿		
「バランス」と「距離」	玉 井 達 二	5
緑 な き 島	木 村 千 仞	7
随 筆		
スイス紀行	市 原 正 彬	9
スポーツ現場のお話——チームドクターのお仕事	樋 口 潤 一	11
留 学 記		
アメリカ留学報告—続編—	鳥 取 部 光 司	13
開 業		
開業(世紀末のField Of Dreams)	蛭 原 啓 文	14
山田整形外科からあかえ整形外科へ	黒 木 隆 男	18
野 球 大 会 報 告		
西日本野球大会を終えて	福 元 洋 一	20
5連覇ならず	松 岡 知 己	22
新 関 連 病 院 紹 介		
西郷村国民健康保険病院	栗 原 典 近	24
財団法人 弘潤会 野崎東病院	野 中 隆 史	25
長崎労災病院	井 上 篤	26
学 会 報 告		
第5回日本リハビリテーション医学会九州地方会	黒 木 龍 二	27
第17回九州リウマチ学会を終えて	帖 佐 悦 男	28
一 問 一 答		
夫を語る		29
認 定 医 試 験		
認定医試験を終えて	飯 干 明	30

後藤啓輔	30
坂本武郎	31
関本朝久	31
福元洋一	32
本部浩一	32
山口政一朗	33
渡邊信二	33
渡部正一	34
吉田好志郎	35

医 局 旅 行

私と医局旅行	川野彰裕	37
新入会員自己紹介	公文崇詞	39
		後藤英一	39
		増田寛	40
		魏國雄	40
研 究 業 績			41
編 集 後 記	福田健二	64



同門会幹事報告 (平成11年度を振り返って)

幹事 岡田 光司

平成11年度(平成10年10月1日～平成11年9月30日)を振り返るに、国内では保険金に絡んだ事件が頻発し、経済界では大手銀行破綻、企業の大倒産が相次いで不信・不況の嵐が吹きまわった感がありました。医療関係では臓器移植実施、公的介護保険導入、国公立病院独立法人化、カルテ開示など医療体制の変革の動きがひしひしと伝わってきます。一方、海外においては北朝鮮問題、コソボ紛争、チモール独立などなど、また異常気象に加え大地震、台風(ハリケーン)などの激しい自然災害が頻発しています。内外とも一言で言うと新たな千年紀(ミレニアム)を迎え、節目の大変な1年間でありました。平成12年度は早速、核の臨界被爆事故ですが、次の世紀はどうなるのでしょうか?

さて同門会の平成11年度の活動状況、会員消息など、また平成12年度の予定につきましては先日(平成11年11月27日)の総会で報告した通りです。幹事の立場から申しますと、去る平成11年5月29

日(土)の臨時総会での役員改選は同門会の今後の方向付けに特に重要であったと思われます。すなわち、より公正・公平を期して今までになく手順を踏んだ選挙を行なうことができ、教室の川野彰裕先生を新たに加えて役員が選出されました。そして次回の役員改選は2年後の平成13年11月の総会時に予定されました。同門会の運営も円滑化され、ようやく落ち着くべきところに落ち着いた感がございまして、1人安堵しているところです。

また長年同門会の事務に関わってまいりました辰巳女史が6月30日を持ちまして退職され、温水女史に交替となりました。辰巳女史にはこれまでの多大なる貢献に対しまして紙面を借り謝意を表しますと共に、教室の温水きさ子女史には今後とも事務運営の方よろしく願っていたいと存じます。以上、簡単ですが平成11年度の同門会報告とさせていただきます。繰り返しとなりますが、以下に現役員を記します。

今期役員(平成11年5月～平成13年11月)

敬称略

会長：河野 雅行
幹事：帖佐 悦男、岡田 光司
会計：川越 正一、川野啓一郎
世話人：(勤務)伊勢 紘平、税所幸一郎、長鶴 義隆、柏木 輝行、黒木 龍二、川野 彰裕
(開業)矢野 希人、押川紘一郎、平川 俊一、松本 宏一、福田 健二
監査：戸田 勝、桑原 茂
*編集委員：福田、押川、川野(あ)
親睦委員：平川、戸田(ゴルフ担当)・川野(け)、福田(テニス)

医局長としてのこの1年

医局長 黒木 龍二

早いもので今年も残り3カ月となり、2000年に向けてのカウントダウンも100日を切りました。(会誌が発行される頃はさらに短くなっていることと存じますが)。思い返せばおよそ1年前の今頃、前医局長の柏木先生より次期医局長の話題が出始めた頃から、医局長としての生活がすでに始まっていたように思います。11月に教授から正式な通達を頂いてからは、膨大な量の申し送りが始まりました。柏木先生はご存じの通り非常に几帳面な方で、約1カ月間に渡り「医局長とは」、「医局長たるもの」という個人授業を受け、段ボール2箱、フロッピーディスク7枚の資料を頂きました。12月に入るといくつかの忘年会で意識を失う傍ら、柏木先生の「何事もメモをとれ」の指示を実践するためビジネス用のスケジュール帳2冊を購入、また書類保存用のファイルを約20冊、ついでにスーツ3着を購入しました。こうして平成11年の名誉ある医局長の仕事が始まりました。前置きが長くなりましたが、本年の医局の動きを医局長の立場から振り返ってみたいと思います。

1月： 医局長の仕事は教授宅の新年の挨拶から始まります。真新しいスーツを身につけ午前10時に教授宅を訪問させて頂きました。それから午後5時までの約7時間、次々と訪れては去っていく医局員の相手をしながら、奥様の手料理を卓也先生と食べ続けておりました。教授宅でご馳走になった方は

ご存じかと思いますが、奥様の手料理は本当に美味で、卓也先生があのように立派に成長されたのも納得がいくものであります。

次の仕事は教授との関連病院への挨拶でありました。挨拶と申しましても今回は教室員の減少(開業等に伴う退局、大学病院での研修医ローテーション)に伴います関連病院の縮小に関連した非常に辛いものでした。有り難いことに整形外科のニーズは相変わらず多く、関連病院を増やすことは先方からも喜ばれ、ある意味では楽だと思えますが、減らすことは医局に取りましても非常に心苦しいものです。

2月： 今年最初の主催学会であります第5回日本リハビリテーション医学会九州地方会が開催されました。この学会は前年より準備段階から自分が担当しておりましたので、第4回(北九州)の学会を見学にいき、人目をばかからず会場の状況をビデオで撮影し、それをもとに医局の温水さんと準備、運営を致しました。(詳細は別項に記載いたしております)。医局の先生方にはご協力いただき有り難うございました。

3月： 2回目の主催学会であります第17回九州リウマチ学会が開催されました。祐佐助教授が担当され、準備万端で学会の運営は大成功でありましたが、2日目の朝、不覚にも20分ほど遅刻してしまい医局の先生方

に多大な迷惑をお掛け致しました。鷹取さんの「医局長もたまにはこれくらいの方が、他の先生から親しみを持たれますよ」と励まされたことで立ち直ることができました。スタッフとしてご協力いただいた先生方、どうも申し訳ありませんでした。

4月： 第72回日本整形外科学会が横浜市で開催され、我が医局は今年も親善野球大会に参加させて頂きました。例年医局長も同行いたしますが、あくまでも応援のみであります。しかし約1カ月前に教授から渡されたましたメンバー表には選手（ここでいう選手とは当然1軍の選りすぐりであります。）の中に自分も入っておりました。1軍から遠ざかって7年あまりが経つ自分に取りましては、今更活躍できる訳はなく、実際には3塁コーチとしての参加となりました。しかし久しぶりに味わう緊張感あふれる試合に参加させて頂き、松岡副医局長、富里先生（スコアラー）とともに裏方として非常に楽しませて頂きました。もちろん学会にも参加させて頂きましたが、悲しいことに主催の横浜市大の先生方が忙しいようにされている姿ばかりが自分には印象的でした。横浜市大の先生方、どうもお疲れさまでした。

5月： 今年も3名の新人医局員を迎えることができました。前年が10名でありましたので少々の寂しさを感じましたが、新しい風が吹き始め医局内にもさらに活気が出て参りました。

この時期は7月人事の最終段階であります。異動の対象となる先生および医長の先生方との連絡であわただしいに日々が続きました。自分に取りましては初めての人事であり、あらためてその難しさを実感させられたのもこの時期であります。必ずしもすべての先生方の納得が得られるものでは

なく、また関連病院縮小で多くの方々にご迷惑をお掛け致したものと存じます。ご理解の程、よろしく願い申し上げます。

6月： 7月に開催されます三水会（症例検討会）第100回記念講演会の準備に終始致しました。毎回1回のペースで開催されております同会が、よりによって今年ちょうど100回を迎えるという運命を恨みつつ、医局の鷹取さんおよび共催のメーカーの方の協力を得ながら急ピッチで準備を行いました。国内から3名の講師の先生方をお招きしての講演会でありますので、とくにスケジュールの調整におきましては少々の苦勞がありました。

7月： 前述の講演会が第38回宮崎整形外科懇話会と同時に開催されました。講師には久留米大学井上明生教授、東海大学福田宏明教授、山口大学河合伸也教授をお迎えし、貴重なご講演を拝聴させて頂きました。いずれもご経験に基づく素晴らしいご講演で、終了後の懇親会の席上では多くの先生方から「参加してよかった」とのお声を掛けて頂きました。3名の先生方、誠に有り難うございました。また懇話会との同時開催でありましたので、医局の鷹取さん、温水さん、共催の2社のメーカーの方々、またスタッフとして協力してくれた医局員の先生方は大変であったことと存じます。お疲れさまでした。

本学6年生に対する1回目の入局説明会も開催いたしました。例年は大学内の医局員のみで行っておりましたが、関連病院も含めた教室全体に関わることでありますので、今回から関連病院の先生方にも参加していただくようお願い致しました。3病院から参加して頂き大変有意義であったと存じます。

8月： 西日本親善野球大会が開催され、松岡副

医局長を中心に準備を行いました。出発日が台風と重なりそうであったため、前日になって急遽連絡網の作成、空路以外での交通手段の確保など予定外の準備に追われましたが、幸い予定通り北九州に着くことができ、講演会、レセプションにはほぼ全員が参加できました。試合の方は1軍は2年連続の優勝でしたが、我が2軍は5年連続優勝を目指したものの自分が先発した2回戦の琉球大学戦で惜敗してしまいました。おかげで4月に引き続き今年2度も1軍の試合を応援することができました。

9月： 医局旅行、第2回目の入局説明会を開催致しました。医局旅行は後藤副医局長を中心に準備を進め、自分も含め5~6人が家族同伴で参加し、家族サービスを兼ねた楽しい旅行となりました。2日目のチェックアウトの際、鹿児島で開催される学会に参加するため、移動中の教授を乗せて電車が、大雨で止まっているとの情報を留守番の松岡副医局長から受けたときは、外の大雨を見ながら背筋が凍る思いが致しましたが、その後、電車が動き始めたことを確認して安心致しました。また入局説明会は7月に引き続き4名の関連病院の先生方に協力して頂きまして誠に有り難うございました。

11月に開催予定の第98回西日本整形災害外科学会の準備も最終段階に入って参りました。自分の担当は主に人員の配置、役割分担でありますので現在少しずつ進めている段階です。

以上、主な9月までの医局の行事を中心に振り返ってみました。こうして文章で記してみますと、毎月毎月様々な行事が続いていることに、我ながら驚いている次第であります。同時進行でいくつかの仕事をこなすことが、いかに大変かということを感じ、あらためて歴代の医局長の先生方を尊敬致しております。しかし医局長の仕事は他の医局員の協力なしでは絶対に成り立ちません。自分が体調を崩さず(体重は多少減りました)今日に至りましたのは、家族の理解、協力があり、また様々な方々のご支援ご協力のお陰であると心より感謝致しております。ただ最近少しだけ気がかりなことは、西暦2000年へのカウントダウンが100日を切った現在、昨年の今頃に出始めた次期医局長の候補者の名前が、今年は未だに教授の口から聞かれません。この会誌が発行された頃に、来年の医局長はどうなっているのでしょうか。



「バランス」と「距離」

玉井 達二

今年の甲子園での高校球児の熱戦も終わりました。今年も若者の素晴らしさを見せてくれました。嬉しいことです。結局は心技体のバランスが、高いレベルでとれていたチームが、優勝旗を手にしたのでしょう。また、そのようなチームなればこそ、チャンスの神様が肩入れをしたのかも知れません。

この神様には「後ろ髪がない」ので、何時でも準備をして置かなければ掴まえることが出来ないと言います。煎じ詰めれば、心技体の高いレベルでのバランスを身につけるまでの努力が、チャンスを手にしたのではないのでしょうか。ある人は「チャンスを掴まえても、こちらがゼロでは何にもならない」ともいいますが、確かに偶然チャンスを掴まえても、こちらがゼロでは、そのチャンスを生かすことは出来ないでしょう。

先日、俳優の佐野史郎さんが、「アンバランス」という題で、このような事を書いておられました。「日々、俳優の仕事を通して一番気を付けねばならないのは、相手や物、風景等と自分との距離感である。正確な居場所と声の音量の正確さ、しかし、見渡せばなんと現実の日々はアンバランスに囲まれていることか……。明らかに大きすぎる声で話をする人たちは決して少なくない。喫茶店で、電車の中で……。その反対に、話しかけても返事すらしない人もいる。……」これを読んで私は大いに反省致しま

した。

佐野さんは「俳優の仕事を通して……。」といっておられますが、我々も人生劇の一俳優ですから、人生劇の「全ての場」で、常にその周囲との距離間、そしてバランスを考える必要があるということであろうかと思えます。

勿論、人生劇にける「医療の場」も例外では無いと思えます。知識や技術をいくら身につけても、心に問題があればどうにもなりませんし、そのバランスは良い方に取れていなければ困ります。「医療の場」では患者さんを含めた良いチームワークの下でのみ、良い結果が得られるからです。

人生劇における色々なものの距離を考えて見ますと、私どもの社会生活の中の距離には、物理的な距離、時間的な距離等色々あろうかと思えます。しかし非常に不思議なことに、人の心と心の距離は、同じ家に住んでいても、心は遠く離れている人、中には何百光年も離れている人もおります。また一方、遙か遠くに住んでいても、心はお互いにすぐ隣に座っている人もあり、本当に様々です。

お互いに近付きたいと思っているのに、どうした訳か二つの心は宙に浮いて、只々お互いの周囲を回り続けていたり、擦れ違ったりばかりして、なかなかドッキングしないことがあるように思います。磁石の同じ極のようなものなのではないでしょうか。

私共人間は弱いもの。色々な状況に応じて程よい距離を保つことが大切であると分かっている、それをすることの難しさに頭を痛めます。

火に近付き過ぎれば火傷をします。遠ければ暖はとれません。しかし、敢えて火中の栗を拾わなければならないこともあろうかと思えます。その状況、状況によって皆さんの英知で、近づくもよし、またドッキングするもよし、遠

ざかるもよいかも知れません。そこに人々の賢さが滲み出るのではないのでしょうか？

人生劇「医療の場」における私共は、患者さんを知り、患者さんの立場に立って考え、お手伝いをするために、知・技・心の高いレベルにおけるバランスの下で、患者さんを含めたチームメートとの心の正しいドッキングを大切にしたいと思いますが、如何でしょうか。



緑 な き 島

木 村 千 仞

戦後54年もたつと、記憶もだんだんうすれてくるが終戦前後の苛酷な情況は巷に溢れており、思い出したくもない人ばかりであろう。私も当時旧制の中学生で熊本から20km離れた田舎から汽車通学し、そのほとんどの時間は勤労働員で、ある時は土方、ある時は健軍の三菱飛行機工場で昼夜3交替の使役に就いていた。しかし、7月下旬の米軍空爆で熊本も市街地の大半と健軍の工場は木っ端微塵に焼きつくされ、樹木らしいものも残らず焼野ヶ原と化していた。後日訪れた長崎も原爆で焦土と化し、同様の焼け跡で、建物は勿論木も草も見えない悲惨な姿であった事はいうまでもない。当時誰しもが今日見られる様な高層ビルに、戦前に見た街中の豊かな樹木、緑の公園が再現されるとは想像もされなかったと思う。

ふり返ると、子供時代、学生時代、寮生活など大半樹林に囲まれた日常であり、勤務医となつてからも住いの多くが緑にかこまれていたので空気が美味しく、森林浴に恵まれ、色々な小鳥の囀りに目を覚まし、虫の音に心安まる幸せがあったことを感謝している。停年後は仕事の都合で再び熊本に移ったが、最近熊本城堀端に住いを見つけて貰い、朝夕お城を借景として満足感の中で余生を過している。

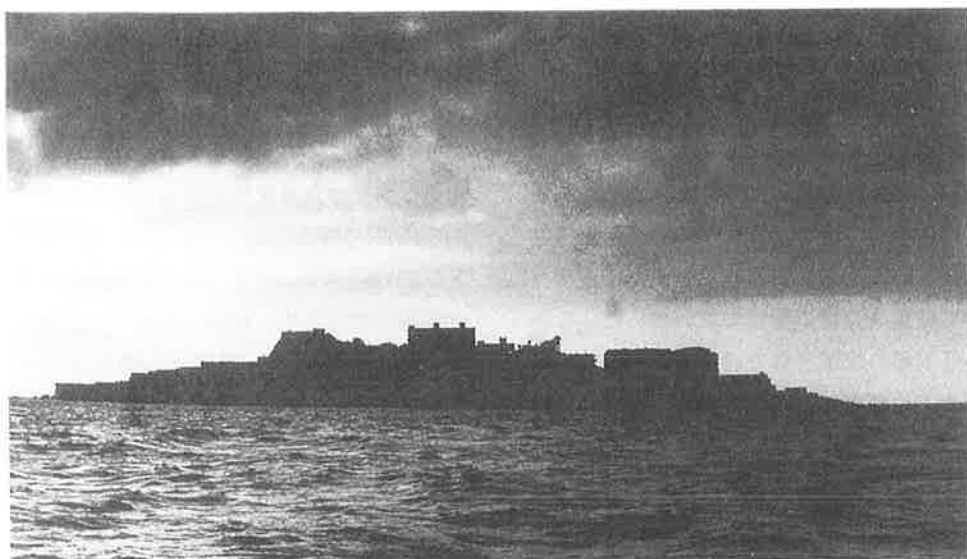
戦後間もない昭和22年夏、五高1年同級生のH君、S君らと3人で1カ月アルバイトに行こうということになり、空腹と小遣い銭を少しで

も充たしたい一念から、当時黒いダイヤで活況下の長崎端島炭坑に出向いた。これは兄が三菱鉱業にいたことで世話して貰ったわけである。此処は海底から良質炭が出るということで長崎から舟で1.5時間位南方の小さい岩礁を土台にして0.6平方キロのコンクリート島をつくり密集した高層住宅と学校・病院・店舗などを林立させて5300人位住める一部落とし樹木1本もない「緑なき島」である。その外観から別名「軍艦島」ともいわれ、戦時中は米軍魚雷がかなり攻撃を加えた由である。緑の樹木1本もない軍艦島の超過密共同生活は息詰まる日常と考えていた私は、むしろ礁土の上のテント・トタン・ベニヤ板囲いの殺伐とした雰囲気、闇市の雑踏と生活苦からの不人情をきわめた混乱の本島情況と比べて全く違った隣人同士の強いいたわり合いが満ちていたのにびっくりした。夫婦ゲンカしても簡単に家出もできず、ガマンの2人となって和解するということらしい。しかし閉山後はこの島も無人島となり、住人が本島へ移ってから離婚がどっと増えたらしい。今私の手元に無人廃墟となった「軍艦島」を雑賀氏写真集で見たら、日本本島の現代の風潮とどこか似た点がありそうな気がする。

樹木というのは風雪火災で幹が倒れても、土の中に深く残った根があれば土壌からの養分で再び芽を出し、葉・枝・幹を育て巨木となつて、鳥や虫の棲家となり、動物の餌となり、CO₂

を0°に変えて綺麗な空気や水を吾々に供えて共同生活してくれる大事な存在である。最近電線地中化と共に街路樹消失が問題になっているが、排ガス規制を機にマネーや経済ばかりを優先する生き方を考え直し、心の糧に飢えている人間に優しい環境を自治体は作るべきではなかろうか。ヒポクラテスの時代に柳の皮でリウマチの痛みを和らげ、そこからアスピリンが生まれ、ミ

ューリスはセコイアの並木道を通りながら月明りの下でPCR検査法が頭に浮かび分子生物学を急速に発展させ、ノーベル賞を受賞したという。人間の文化・芸術・科学の発展に無数の樹木が人の閃めきに寄与していることは、等閑視できない。あらためて緑の樹木に人間は敬意を表すべきであろう。



緑なき島（軍艦島）



ス イ ス 紀 行

市 原 正 彬

この春、還暦を迎えました。娘から一度でいいから絶対に家族で海外旅行をしたいと、耳にタコが出来る程、いわれ続けてましたし、新婚旅行も国内でお茶を濁していた為に、女房からも折にふれて、私は未だ一度も外国に行った事が無いと嫌味を言われてまして、遂に6月上旬、何の前触れも無く突然、外国へ行こうと思立しました。

還暦の祝いにと、高齢者向きの軽いゴルフクラブ一式を女房が買ってくれた事と、犬好きな私の為にと、3人の子供達が、以前飼っていて天寿を全うして死んだのと同種の犬の子を、お金を出しあって買ってくれた事が、心の底で借りとなっていたのかもしれませんが。いつも昼食をとる病院の会議室に置いてあるJTBの時刻表の、海外の所をひょいとあけたら、チューリッヒ行きの案内が、まっ先に出て来たので、これも何かの因縁かと、旅行先をスイスに決めました。女房が早速娘に電話した所、娘は心の中ではイタリアとかスペインとか、いろいろ目論見はあった様でしたが、何しろ何かのきっかけがあれば、突然全ての計画を中止する私の性格を知っているだけに、即座に何も聞かず、いつも忙しい忙しいと碌すっぽアパートに居た事がないのに、翌日は都内に出て、旅行会社を訪ねて全ての計画を立て、その夜の内に、旅行はすっかり現実のものとなりました。

長男は研修医の為、今回は留守をしてもらい、

同じ研修医でも、もし休暇をもらえなければ研修医をやめてでも一緒に行きたい娘は、その迫力で1週間の夏休みを勝ち取り、二男は3月に薬大を卒業している筈だったのが、幸か不幸か卒業論文が出来上がらずに半年間の卒業延期となっていて、時間に余裕がありまして参加。結局女房との4人での出発となりました。7月4日、日曜日の昼下がり、夏休み前で人の少ない成田空港から親二人は初めての、子供二人は何回目かの外国旅行へ出発いたしました。

旅程を略記しますと、第1日目チューリッヒ空港着、泊、翌日インターラーケンへ2時間余の汽車の旅でここに3泊、そしてパノラマ特急でローザンヌへ出て1泊、最終日はジュネーブ空港からチューリッヒ空港を経由して帰国いたしました。日本に居る時の想像では最もスイスらしいアルプスの麓のインターラーケンにゆっくり腰をおちつけて、アイガー北壁を眺めたり、登山車で、ユングフラウヨッホへ登り、周辺を散策するつもりで、その為の靴や衣服やサングラス迄用意して行ったのですが、ここでは2日間が雨で、地元で見せてくれるテレビでのライブでは、頂上が霧で視界ゼロ、仕方なく1日、首都ベルンへ行き、歩きまわりました。ここは帖佐先生が1年間留学された所ですが、周囲をなだらかな緑豊かな丘陵に囲まれ、アーレ川が街の中央を迂回して流れる古い美しい街でした。中央にスイス1、高い大聖堂があり、川に沿った如く弧を描

いて整然と立ち並ぶ建物は、全て統一された屋根と壁を持ち、中世紀そのままの雰囲気を残していました。インターラーケンからローザンヌへのパノラマ特急は窓だらけの様な豪華な列車で、スイス特有の深い緑色の水をたたえた川と湖の傍を、頂きに雪を残したスイスの山々を遠景に、そこから湖に向かって広がる、目に痛い程の緑の広大な草原と丘陵と、窓々に花を飾った民宿風の家々と、幾つかの小駅、リュックを背負った旅人達や牛の群、そして空も透き通る程にまっ青でした。ローザンヌへ着くと、ここはレマン湖畔の町ですが、対岸はフランスという国境の都市で、人の服装も言葉も立居振舞いも全てフランス風で、それ迄のドイツ的な雰囲気とは一変していました。ホテルは古いゴシック式の建物でしたが、出入りする女性達は不思議と皆若く、モデルそのけと言わんばかりにきれいで、湖を見たり建物を見たり、そして女性を見たりでいつもゴルフのボールと患者さんばかりを見ていた私の目玉も久しぶりに美しい物を堪能させてもらった事でした。

今回の旅行は全く自由な何の束縛もない旅程

で、そして久しぶりに家族4人が1週間、いつも一緒に居られた事が何よりもうれしい事でした。女房は6月10日犬の散歩中、足をひねって第五中足骨を折り、3週間足らずのギブス固定から開放されたばかりで、旅行中、夜はいつもチリ入れの容器に水をはって冷やしながら、バンバンに腫れた足を引きずっての旅でした。あんなに旅を楽しみにしていた娘は、過酷な研修医生活で慢性的な睡眠不足と不規則な食事ですっかり体調を崩して初日から毎日吐き続けて殆ど食餌も喉を通らない状態だったらしいのですが当初それを隠しての旅行でした。それでも4人がそれぞれ大学入学で離れ離れになっていく以前の一つにまとまった家族だった頃の思いを、久しぶりにじっくり味わう事が出来て、その中でお互いへの思いやりを表す様子から、子供達の成長が垣間見えて本当に心身共に充実した7日間の旅でした。次回は長男も加えて、全員、五体満足な状態で、もう少し長くゆっくりした外国旅行を、私共夫婦が年をとり過ぎる前に、そして子供達がそれぞれ伴侶を迎える前に近い将来行きたいものだと考えております。



スポーツ現場のお話 チームドクターのお仕事

樋口 潤一

平成11年3月28日から4月7日まで、正月に行われた第77回全国高校サッカー選手権大会の優秀選手のヨーロッパ遠征（スイス・ドイツ）にドクターとして帯同させて頂きました。スイスで調整合宿を行い、ドイツのデュッセルドルフ国際ユーストーナメントに参加するというスケジュールでした。このチームは高体連の行事で、選手団ということで、選手18名に、スタッフも団長や総務の先生方に監督が奈良育英高校の上間先生、コーチが東福岡高校の志波先生、ドクター、トレーナー（松田直樹さん；筑波のPT）、エキップとしてカメイスports（トッパー、パトリック）の立木さん、日立トラベルから2名、日本テレビの鈴木さんをはじめとした報道関係者など総勢40名の大人数でした。海外遠征が初めてという選手も多く、移動に伴いコンディションを崩す選手も出ると心配し医薬品の準備でも、点滴類を多めに準備したり、呼吸器疾患、消化器疾患に対応できるような内服薬も準備しました。幸いなことに、軽い上気道炎症状の選手が2人でしたが、試合に影響するような疾患はなかったものの、元々の障害で、コンディションが上がらず1試合も出場せずに終わった選手が2名いたのは残念でした（18名のうち使えない選手が2名いると試合のプランにも大きな影響があったようです）。デュッセルドルフの大会の方は、FC.Liverpool, Borussia Dortmund, Fortuna Dusseldorf, Lichtenstein U-18の

4チームと同じグループになり結局3分け1敗という結果でグループリーグで敗退が決まってしまうました。選手達は能力を十分に発揮したものの、Jリーグ行きが決まっていた選手が遠征を辞退したため、進学する選手が主体で（帝京の高橋泰；サンフレッチェ広島、斉藤大介；金光一高→京都サンガの2名だけがJにはいる選手でした）あった点は、前の年のチーム（本山、小笠原、金子などがいたチーム）からすると仕方ない結果なのかもしれません。

今回の遠征のドクターの仕事は主に、コンディション管理、外傷・障害の診断と治療、医療相談で、特にコンディション管理には気を使いました。日本より寒い地域に行くということで、行きの飛行機の中で風邪をひかせないように水分摂取やマスクの使用を指導したり、風邪対策に医薬品を準備したりしましたが、最初の合宿地のスイスが温かった（日中は20度近くあった）ため風邪をひく選手、熱を出す選手はなく助かりました。また、外傷・障害の診断・治療に関しては、私の仕事は診断が主で治療（ストレッチ、マッサージも含めて）の部分はトレーナーの松田さんに負うところが多く、こちらがお手伝いするような状況（テーピングやストレッチなど）もありました。結局はコンディショニングチェックと食事のアドバイスが毎日の主な仕事でした。

以上、サッカー日本高校選抜チームのドクター

を担当して思ったことは、まず診断（判断）にはスピードを要求されるということです。特に試合中のケガに関しては、自分の手の感覚に頼るしかなく普段の診察の時の心がけ（先にX線写真やMRIなどの画像を見てしまわない様にするなど）が大切であることを再認識しました。次に、整形外科であっても医師としての総合的な知識が要求されるとともに、コンディショニングに関してドクターにかかる割合が大きいということです。食事に関しても、試合前どのくらいならどういふものを取るようアドバイスするかとか出されたメニューの中からのピックアップなど、選手のパフォーマンスを左右するコメントを責任もって行わなければなりません。そういう意味では、スポーツドクターとしての

仕事が要求されると言うことでしょう。また、コンディショニングの把握という意味では選手と積極的に話をする必要もあります。それと、自分がコンディショニングを崩さないような注意が必要です。健康な体を維持する普段からの心がけも必要だと思います。その競技に対する愛情があることがチームに帯同する上では大事なような気がします。

最後に、約10日間もの遠征に快く送り出していただいた田島教授、橘病院の矢野良英院長先生ならびにスポーツグループの先生方をはじめ諸先生方には大変感謝しております。ありがとうございます。この経験を生かして今後も積極的に現場に出て行けるようにがんばりたいと思います。



アメリカ留学報告—続編—

鳥取部 光 司

まず始めに、再び留学の機会を与えてくださいました、田島教授ならびに同門の先生方に心から御礼申し上げます。また、留学に際しまして、獅子目賢一郎先生ならびに医局員の皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

私は、平成11年1月より10月までの10カ月間、再び田島教授の御承諾を頂き、アメリカのアイオワ大学バイオメディカルエンジニアリングに再留学させていただきました。主任教授は脊椎バイオメカニクスでは非常に名高いGoel教授です。

昨年同様、渡米直後より、他のアメリカ人スタッフと同じように研究員として実験に参加させていただきました。昨年は、スタッフの会話（もちろん英語です）を聞き取ることすら困難で、わけもわからず、ただひたすら実験に参加して仕事をこなしていましたが、今回は少しは単語が聞き取れるようになり不思議でした。実験内容は昨年同様、脊椎実験体の屈曲・伸展・側屈・回旋の動態試験を行い、次に整形外科または脳外科医による椎間板切除後の動態試験、その後instrumentationで固定し、再度試験を行い、さらに万能試験機による疲労試験、最後に再び動態を測定して終了するというものでした。

8月27日、今回の留学目的のひとつである

instrumentationの実験をするために医局より松元先生が当地アイオワに来て下さいました。早朝より実験を開始し、滞在期間の間になるべく多くの症例を確保しようと、夜中過ぎまでかけて連日2人で頑張りました。せっかくアイオワに来ていただきましたのに、実験づくめの毎日、この紙面をお借りして松元先生には心から御礼とお詫びを申し上げます。

アイオワでの私自身の研究は、有限要素法を用いて脊椎モデルを作成することでした。しかし、モデル作成は大変時間のかかる作業のため、他の実験の手伝いをしながらの作業ではなかなか十分な時間が取れず、残すところあと一カ月余りの留学期間では、果たして本当に無事作成出来るのか、日毎に不安を募らせている今日この頃です。

私が在住したアイオワシティは大学を中心とした小さな町でしたが、「住めば都」で、アメリカの学生と一緒に大雪の中をバスで通勤したり、大地が響くような雷や、いきなり降りだす大粒の雨、そしてトルネードを体験できた事は、今振り返ればなつかしい貴重な経験でした。

留学で学んできたことを今後の臨床・研究に役立てていきたいと思っています。以上を私のアメリカ留学の御報告とさせていただきます。

平成11年9月13日

開業



開業 〈世紀末のField Of Dreams〉

もちお蛭原医院
院長 蛭原 啓文
(婦長兼レントゲン技師長兼リハ室長兼営業主任)

みなさんおはこんばんちわ。私儀、
去る1999年3月10日大安吉日、都城市蓑原町
8251番地にもちお蛭原医院を開業いたしました
(母智丘公園にそれほど近くではないのですが、
ただこのモチオの地名が好きだという理由で命
名いたしました)。

『はじめに』

今回の開業に際しまして多大なる支援を頂き
ました田島教授、帖佐助教授はじめ川越正一元
医局長、柏木輝行元医局長そして黒木龍二現医
局長他多くの宮崎医科大学整形外科医局員の皆
様、また同門会長・河野雅行先生を筆頭に手取
り足取り開業の御指導をしてくださりました獅
子目整形外科病院長の獅子目賢一郎先生をはじ
め多くの同門の先生方には大変お世話になり有
り難うございました。また同時に未だ開業のご
挨拶を申し上げていない先生方には不行き届き
の点、大変な失礼を致しましたことをこの場を
お借りしまして深くお詫び致したいと存じます。

さて、【開業】といったテーマを福田健二編集
長に頂いたのは確かビア・ガーデンでビールを
たくさん飲んで顔を真っ赤にし、ろれつも回ら
ず体フラフラのときのことで、なにがなんだか
分からない内にポンポンポンとビール腹を
打ちながらポンポンと話が決まってしまったの
です。今この原稿を書きながら、あの時、安請
け合いしてしまったことを非常に後悔している

ところですよ。

【開業】、こういったテーマは開業後やっと半年
経過したばかりで、諸先輩方にはひよこの戯言
に聞こえること必至でお恥ずかしいのですが、難
しい話ではなく、まだ頭の中に新鮮な内容で残
っている部分についてちょこちょこかいつまん
でお話したいと存じます。まずは
『なんで開業しやったっちゃるか』

なぜ今開業なのか？この不景気の時代に何で
だろう？開業の動機の一つは「捨てきれない」こ
とです。なにが捨てきれないか？それは防衛医
科大学をやめてまで形成外科を志して東邦大学
形成外科に転校し、やっとのれん分けをしてい
ただくまでに自分が努力・吸収してきた形成外
科的感性と技術でした。これを今後もずっと生
かしたい・いつまでも維持していきたいといった
願望が開業の決断につながったのだと考えます。
宮崎医科大学整形外科に入局の際にはせっかく
心機一転宮崎に帰ってきたのだから整形外科を
志し試練に耐えねばとがんばりました。また、周
り医局員・同門の皆様には温かい手をさしのべ
ていただき、ほんとに皆様の人柄に守られ何ら
不服は無かったのですが、やはりなにをするに
しても形成外科的な発想が先走り、周りに迷惑
をかけてしまっているような感じがしてしま
した。

そんな中で病気・入院といった外科系の侍としては情けない事態に直面し、いろいろ考えた結果、認定資格を頂くまでが自分の医局員としてがんばる限界と自覚しました。

さらに自分の道をどう切り開くか自分で決めねば！と考えた結果が整形外科と形成外科の両道をバランス良く供給する開業への道だったのです。

『はじめからつまずきました』

意外と甘くありませんでした。開業を思っていたのは平成8年の夏頃でした。まずはどこで始めるかです。開業は事業であり、また患者様がおられてやっと成り立つものなので、一発勝負とも言える土地選びとそのマーケティングには慎重でなくては成らないと思い、気を入れて計画しました。土地は買いに走れば高くなる、決めたらすぐ看板でも挙げて突進しなければ近所で先を越される場合もある。そのまんまこのことを自分がかぶってしまい、慎重すぎるせいか、はじめに決めていた土地は手放すはめになったのです。それからはしばらく運に見放され、どつぼの悪環境が続くばかりでなかなか土地決定には至りませんでした。

それから3~4回ほど土地問題でもめにもめた後にやっと都城市養原町に決まったのは平成10年6月でした。

『なぜ都城市養原町なのか？』

これは私のルーツを明かすことになりますが、ただ母方の実家なのです。もともと本駅（都城駅）前通りに質屋を営んでおったのですが、私が幼小の時分はほとんどここが生活の拠点でした。たまに遠足みたいにつれていってもらうことが昔はすごく贅沢なことで、その贅沢が年1回のお花見で行った場所、もちお（母智丘公園）なのでした。

以後小学校からは宮崎の生活がメインになる

のですが、都城といえれば母智丘公園といったイメージが持続していました。そこで母から開業は都城でしないよ！といわれたときには、また自分がルーツのルーツに帰るのだ。といった気がして、それまでもやもやした状態がウソのように吹っ切れ、素直に土地決定に至ったのです。

理由は実はもう一つあります。都城に住む叔父に実際の土地に案内してもらった時のことです。その土地の周りには霧島連山の遠景、北から東そして南と見渡すとあたり一面はトウモロコシ畑でした。また南から西にかけてはゴルフのミニコースが隣接していました。一番の印象はトウモロコシ畑です。その前にずーっと立っていますと何だか映画Field Of Dreamsの場面にはまっているみたいで、Kevin Costnerが聞いた同じせりふが聞こえてきたのです。【それを作れば彼はやってくる】。これが本当の理由でしょうか？ちょっと疲れ過ぎていたのかもしれませんが（結局考えないで決定しました）。

先ほどマーケティングの話が出ましたが、この時点では全く後付になってしまっていました。後でとりつけた資料でしたが、院長となる私を除けばほぼ申し分けなしというコンサルタントの回答でほっとしました。しかし私を除けばといった条件にちょっとホットになりました。

相当なプレッシャーです、今も。

『決めることが多すぎる』

土地を決めてからはしばらくグッタリしておりましたが、そのあとは次から次に決めることができました。1998年6月に田島教授の御配慮をいただき、退局してからは獅子目整形外科病院に獅子目院長のもとでの開業指南が始まったわけですが、それから開業までの間は、獅子目院長にご迷惑をかけっぱなしになってしまいました。とにかく決めることが多すぎてそのため人に会う、実物を見に行くといっちはお暇を頂くことがしばしばでした。手術だけ参加す

るといった週もあったりで、いったい何者なんだ？といった感じで大変院長先生にはご迷惑をおかけしてしまいました。この場をまたまたお借りして深くお詫びする次第です。

話は戻って、はじめの頃は決めることなんかはだいたい融資を受ける銀行、次いで建設関係（設計事務所と建設会社）ちょっとつっこんでレントゲン、レセプトコンピューター、リハビリ機器、事務機器ってなもんかなといった軽いのりだったのですが、各種公的申請書や提出書類の内容、職員、勤務時間、給与設定、カルテや各種伝票類の仕様、施設をスリッパ履きか靴履きにするかやワックスの業者選定、トイレの石鹸（固形か液体かリースか）、便座カバーの有無と使うならどんなの（色・質）、はえ叩きなどなどと、とことん開業日までに決めることだらけでした。だからといって自分が発起人なのですが「勝手にしろ！」とは言えないですし、まあそれが楽しい人は楽しいでしょうけど、決めることには当時はもう本当に飽き飽きしてしまいました。

『半年が経ちました』

最近思うことは私自身とことん外来慣れしてないな、ということです。昨日は外来でした。今日も外来です。明日も外来のはずです。とにかく変化のない毎日です。外来診療活動がまだ自分の生活に、まだ組み込まれてないような違和感も覚えます。少しリズムもあったほうがいいのでは？と時々手術も組みますが、コストの面では外来のみ診ていた方がいいのではないかと思います、手術終了を待たずに帰る患者様のことを考えると、かえって患者様を失う気がしてストレスです。また、同僚はこの施設にはいません。部下だけです。院長である以上ぐうたらできないし、さぼって遊ぶなんてとんでもありません。親父ギャグなんてとんでもない、凍りつくのが関の山です。孤独ッテカンジです。今日

この頃はそろそろ何か趣味を見つけないと自分自身危ない気がしてきたので、夜は疲れてでも積極的に飲みにいってみたり、釣りにも行ったり、ゴルフもまた再び始めてみたり、といろいろ工夫をしています。

ただ基本的には自分がやってみて良かったなーって思うのは患者様の〈ありがとう〉といった言葉が帰ってきた時で、これは昔からずーっと変わりません。こんな言葉を聞いた日は酒とかゴルフとかかなにもする必要は無く、心が落ち着き、幸せな気分で安らかに眠れます。

『先輩方はエライ!!』

前述のように開業準備段階からちょっと毛が生えたぐらいの経過でしかないのに、私は多くのストレスを抱えてしまいました。これからはまだまだ借金返済、診療関係のトラブルといった経営・対外面などで、さらに多くの道のストレスが待っているはずですが、本当の【開業】のつらさは想像を絶するものであろうと思われ、そう考えただけでぞーっと身の細るおもいがします。

このようなきびしい開業の世界に入られて長年生きながらえ、本当のつらい姿は少しも見せずに一見ピンピンした姿をしておられる先輩方（本当にピンピンだったら神様です、隠されたノウハウがあればちょっと小耳に入れてほしいです、お願いします!!）はとてもエライです！すばらしい！と思います（僕みたいなヒヨコ野郎にエライと言われて気を悪くさらないで下さい、でも本当にすごいと思います）。

『最後に営業させて下さい!』

当院は整形外科と形成外科、リウマチ科そしてリハビリテーション科を標榜しております。都城市役所横の交差点を関之尾の滝方面に曲がり、ずーっと直進4kmほどすると桜で有名な母智丘公園に行きます。公園までは行かないで、手

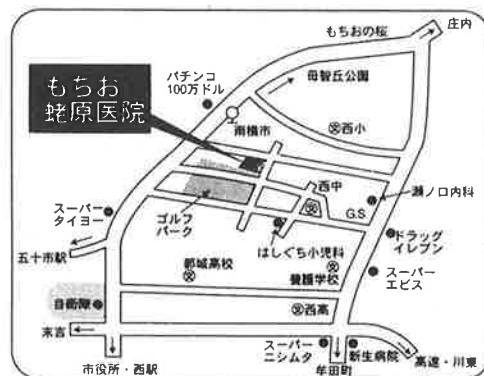
前のスーパータイヨーの次の信号を右折してゴルフ場の裏隣をみれば保育園ですか？といった佇いのもちお蛸原医院が見つかります（地図・写真参照）。外来手術は形成外科（顔面一般、熱傷癒痕、手術癒痕、アザ、シミ）と手の外科関連を主に週に2〜3回行っています。傷跡の形成術は評判が良いようです。スタッフはスピードに似た看護婦さんが4名、キムタクばりの看護師さん1名、超美人看護助手さん1名、キャンディーズ風の受け付け事務は3名です。妻が事務長をしてきて（リハ室のピアノ生演奏も評判はいいようです。一応音楽療法もミックスしております）おりまして私を含め総勢11名です。

診療理念はとにかく優しく、笑顔を絶やさず

ニヤニヤして、包容力を最大限に出し切って、身体のお痛みのみではなく心の痛み（精神面）から患者様のカバーをすることです。

診療時間は午前中は8時30分から12時30分まで、午後は2時から6時までです。入院はできません（もう少し待って下さい）。院長（婦長兼レントゲン技師長兼リハ室長兼営業主任）である私は少々寂しがり屋です。たまには保険証をお持ちになり遊びにいらして下さい。よろしくお願いします。

これから朝晩の冷え込みがきつくなってまいります。お体には十分気をつけて下さい、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、お別れしたいと存じます。





山田整形外科から あかえ整形外科へ

黒木隆男

昭和45年に開業した山田整形外科は、おかげさまをもちまして、今年の1月よりあかえ整形外科として新たなスタートを迎えることが出来ました。

私の義父でもあり、同門会の特別会員である山田文夫がそれまで勤務していた江南病院（現在の宮崎社会保険病院）を辞して、開業しました。

当時のこの場所は、周囲は田んぼや沼地ばかりで、建物といえば山田整形外科と赤江中学校の校舎ぐらいしかなかったそうです。青島方面の道路は病院のある田吉の交差点から伸びる国道一本でバイパスはありませんでした。そのため青島海水浴場へ向かう自動車の列が病院前にもつながっていたそうです。

診療環境として現在と大きく違う点は、医師会病院が無かったこと、病院・医院数が少なかったこと、更に青島線の国道で発生する交通事故が少なかったことです。そのため救急車から多数の患者さんが搬送されたそうです。そのほとんどが重傷ばかりで、以前は脳波計も備えていたそうです。

前院長・現在の法人の理事長山田文夫は、そのような時代から、ここ数年前よりその重要性が強調されるようになった informed consent の時代まで、地域医療に貢献してきました。以前私の先輩が「山田先生ほどになると患者さんの中には「山田教」として信頼してくれる人がいるだろうな」と言ったのを思い出します。

前院長は平成7年の1月に突然病床に伏しまし

た。元気の良いときの義父のことを知る同門の先生は、先輩の方々ばかりだと思います。今は、自宅にて療養中です。

義父が病床に伏した、その時、私は大学院（第2病理）の4年、論文審査の準備をし、更に整形外科認定医の試験を1カ月後に控えていた時でした。病院・論文・認定医どれも切り捨てるわけにはいかないので、山田整形外科で診療をしながら、午後から病理で審査の準備、夜中には認定医試験勉強という生活を送っていました。結構hardな生活が続いたのですが、ほとんど体重は減りませんでした。世の中では、阪神淡路の震災、地下鉄サリン事件が起きたころです。

大学院が終了したら教室に戻るのが当たり前でしたが、田島教授にお願い致しまして、山田整形外科へ出向という形を取らせていただきました。そのころは、山田整形を今後どうするかということ、私自身すぐに退局して開業するか或いは教室に戻って整形外科の臨床腫瘍外科を勉強するかどうか、はまだ決まっておらず、決定するには時間が必要でした。

多数の方々にご相談し、ご助言を頂きました。

田島教授ならびに教室員の皆様には、御迷惑をかけてしまい、かつ期待に答えられない形になってしまいましたが、平成9年末で退局させていただきました。その1年前に意思表示をさせていただきました。山田整形を引き継ぐと決め、病院施設の建て替えを計画しました。設計・工事

を行う中で建築関係の方々・その周辺業種の人たち・医療業界の人たち、たくさんの人々と会う機会がありました。様々な経験をさせていただき、貴重な社会勉強になりました。世の中にはいろいろな価値観があるものだと感じました。ちなみに、新しい建物の設計士は女性です。概観のデザイン等に関しては、設計士にほとんどまかせましたが、東から見える外観（日南線を越えてくる道路の上から見える外観）を一番大事にするようお願いしました。すると4方向全て違う概観で出来上がりました。

多くの方々の協力と御尽力により平成10年の年末に新しい施設に引越す事が出来ました。

あかえ整形外科としてはまだ1年目ですが、私自身平成7年1月から数えると5年目です。あっという間の5年間でした。この地で診療を開始し

た山田整形外科からは今年で29年になります。来年2000年には30周年を迎えます。

山田整形の20数年があってこそ今があるのだと痛感します。患者さんの中には数年に1回の頻度で怪我をしたりして来院する人がいます。「山田先生の時からお世話になっております。」と言ってくれる方が多く、とてもうれしく思っております。先日、平成8年に受診した患者さんが久しぶりに来られて、「前から時々診てもらっております。この間来た時は、若い先生に診てもらいました。病院が新しくなりましたね。」その若い先生は私なのですが……。「それは私です。」とは言えませんでした。40を前にして、少しショックでした。めげずに、地域に密着した医療に貢献すべく、努力・研鑽していきたいと思えます。今後ともよろしく願います。



西日本野球大会を終えて

福元 洋一

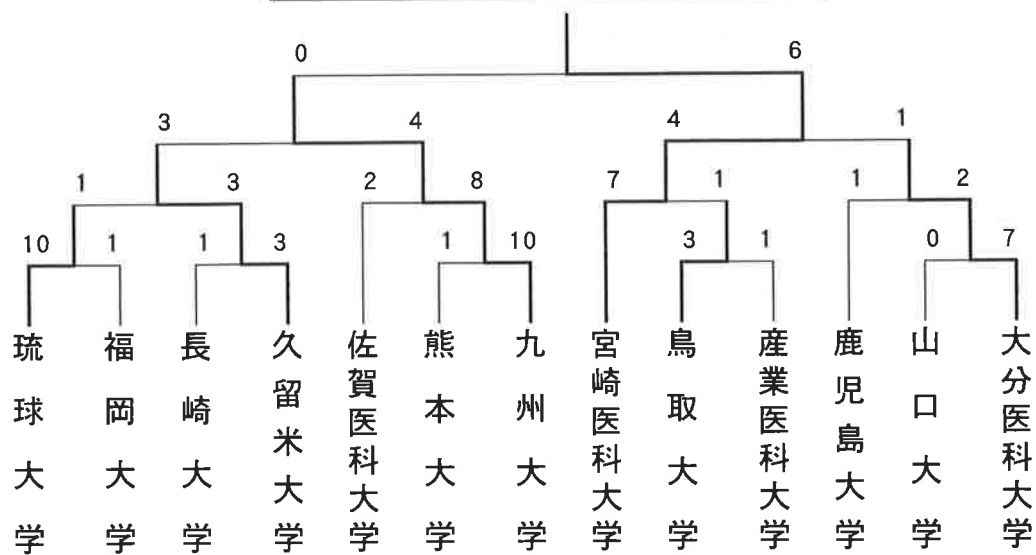
第42回西日本親善野球大会は8月8日に北九州市で開かれました。我が1軍チームは新戦力の補強はなかったものの、2連覇を目指して3月より週2回の朝練を行ってきました。8月7日の前夜祭での抽選会で運良く不戦勝となり、2回戦からの出場となった。初戦は鳥取大学と対戦した。2回に4番松元先生の三塁打を皮切りに畳み掛けるような攻撃で3点を先制し、その後も小刻みに加点していった。投げては松岡先生が先発し、その後を矢野先生が全盛期を思わせるストレートだけの投球で抑え、7対1と快勝した。準決勝の相手は毎年優勝を争ってきた大分医大と対戦した。2回に2点を先制し、2対0とリードしたが4回にノーアウトから2者連続ツーベースを打たれ2対1と追い上げられ、なおもノーアウト2塁とピンチを背負った。

しかし、ここで安藤先生が気迫の投球で後続を断ちその裏2点を追加し4対1と勝ち全国大会出場を決めた。決勝戦は数年前までのライバルであった九州大学と対戦した。九州大学とは、初の西医体決勝、初の全国大会で2回とも苦杯を喫している相手に全国大会出場が決まっても負けたくない相手であった。初回からチャンスをつかみ、満塁から石田先生が負傷を負いながらも走者一掃のツーベースを放ち3点を先制した。その後も小刻みに点を加え、投げては松岡先生が相手打線を2安打に抑え完封し5対0と見事2連覇を果たしました。来年こそは念願の全国制覇をめざして、この秋も朝練が続けております。今後もしろいろと御迷惑をおかけかすと思いますが、皆さまの御協力の程よろしくお願い申し上げます。



[一軍]

宮崎医科大学 優勝



5 連 覇 な ら ず

2軍キャプテン 松岡 知 己

西日本整形外科野球大会の2軍の部で5連覇を信じて北九州に8月7日乗込んだ。今年はやや選手の平均年齢が上昇するも工藤さんが参加してもらえて、久々に山口も参加できて戦力的には問題ないと思われた。ただ4試合戦うには投手がすこし駒不足かなと感じていた。

前夜祭の抽選ではやはりシード権はとれず朝一からの試合となった。

試合当日は快晴で絶好の野球日和であった。1試合目の対戦チームは佐賀医科大学であった。先発は柳園先生で、まずまずの立ち上がりであった。相手ピッチャーもコントロールがよく、自慢の重量打線になかなかエンジンがかからず思う様に点数がとれず先発柳園先生を楽にはできなかった。7-1で迎えた6回裏に江夏のホームランがでてどうにかコールド勝ちができたが今ひとつ爆発力が弱い感じがした。

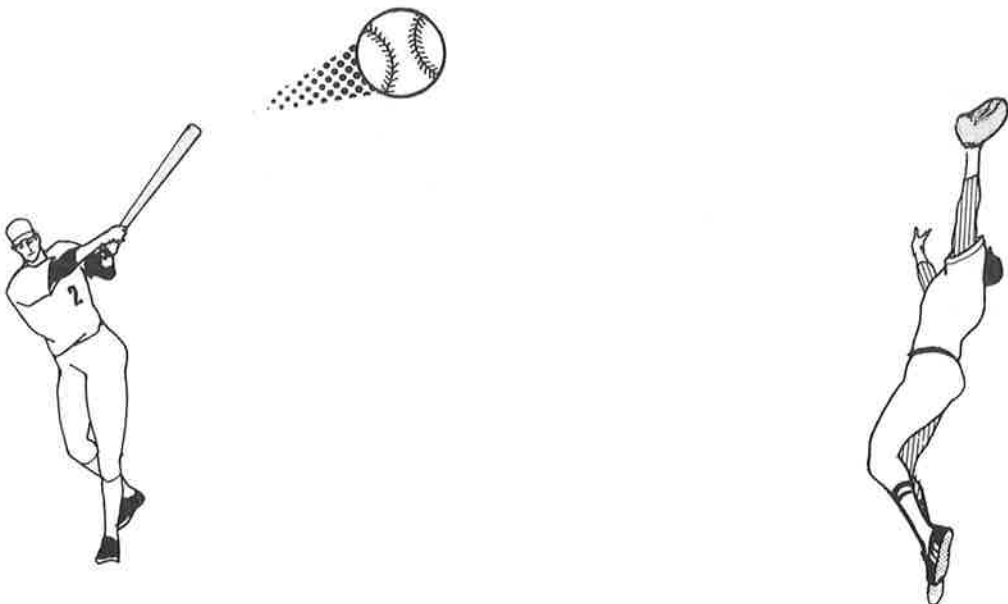
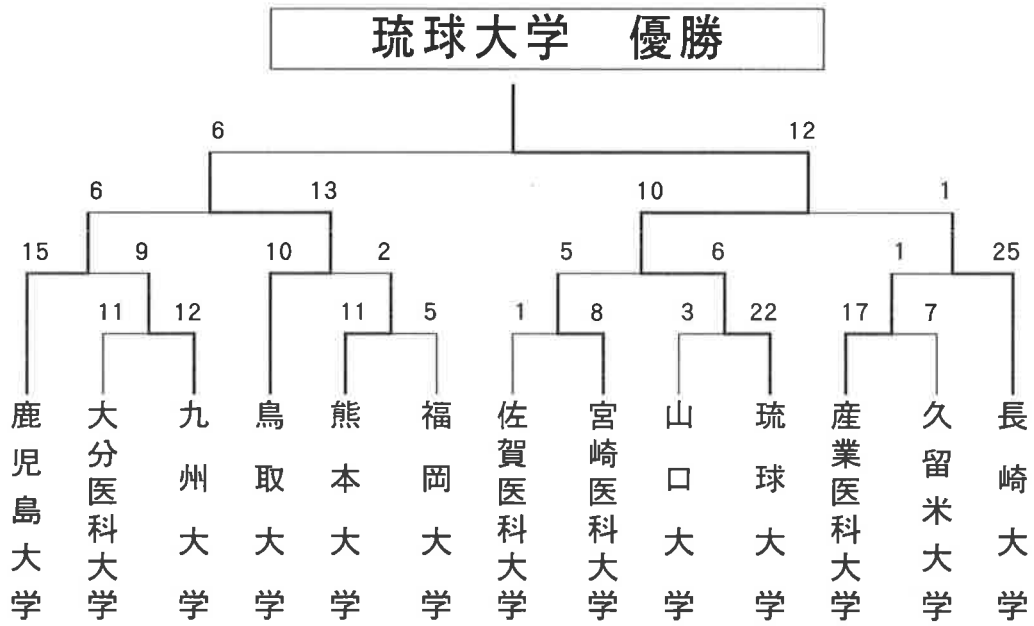
2回戦は琉球大学であった。教授より相手はかなり気合が入っているので気をつけて戦うように指示はされていた。先発は黒木龍二先生で

あった。試合前の走りこみ、投げ込みの成果でコントロールも球の切れもよく6回まで相手チームを2点に抑えた。

打線は2軍線ではあまり見えない素晴らしい相手ピッチャーになかなか大量点は取れなかった。柳園先生の先制ホームランをはじめどうにか5点は取ることができたが駄目押しのチャンス牽制死などでつぶしてしまった。最終回、黒木龍二先生を温存して山口を登板されたが球速はあるも投げ込み不足でコントロール悪く1点を与え1死満塁で急速、柳園先生にリリーフをお願いするも3点を与えてしまい逆転されてしまった。最終回の攻撃も抑えられてしまい5連覇ならずであった。

遠くから来てもらって出場できなかった先生もいて申し訳なかったです。来年は重量打線のパワーアップと投手の必勝リレーで今年のリベンジを誓います。練習して1軍ともどもがんばって行きたいと思います。ご声援ありがとうございました。

[二軍]



西郷村国民健康保険病院

栗原典近

この度、西郷村国民健康保険病院に新しく整形外科が開設され、その第1号として平成11年7月1日着任いたしました。

簡単に西郷村国民健康保健病院について紹介させていただきます。当院は人口約3000人、日向市より車で約30分の西郷村の中心部に位置し、いわゆる入郷地区の中心にあります。病床数22（ちかじか5床増床予定）で、医師3名（内科1名、放射線科1名、整形外科1名）、放射線技師1名、検査技師1名、栄養士1名、理学療法士1名、看護婦17名で構成されています。健康管理センター、在宅看護支援センターとともに地域医療の拠点となっています。

整形外科としては以前自治医大から平成2年まで来ていましたが、その後は外科が入っており、平成10年からは外科も不在で、内科と放射線科2名で診療を行っていたとのことでした。

外科はやはり変性疾患が多く、ついで林業関係の外傷も多いようです。西郷に整形外科の先生がきたげな、という噂が広がり、西郷を始め周辺の諸塚、北郷、南郷から患者が集まってきております。手術の方は約5年間行われておら

ず、機器や麻酔器も十分でないため、現在補充を進めており、私の手に負えるくらいの手術は行っています。

平成13年には病院改築予定で、現在その設計に関して整形外科としての意見を取り入れてもらおうとしているところです。

西郷は風光明媚、また御田祭でも知られております。着任してすぐの7月5日県内外より約3万人を集めて盛大に行われましたが、その前夜祭では3千発の花火が山間に轟き、案の定、うちの1歳8カ月の子供は泣いてしまいました。今年の7月には観光施設として温泉とコテージなどを持つ石峠レイクランドがオープンし盛況のようです。（私はまだ行っていませんが。）ぜひ皆さんのお越しをお待ちしております。

周囲を自然に囲まれ、社宅も新築3LDKの1軒家の立派なものがあり、家族も喜んでおります。

最後にまだまだ未熟でありますので同門、医局の先生に何かとお世話になると思いますが、今後ともご支援、ご忠告のほどよろしく願いたします。

財団法人 弘潤会 野 崎 東 病 院

野 中 隆 史

野崎東病院は平成6年4月に大島線沿いの宮崎市村角町高尊に老人保健施設シルバーケア野崎と併せて設立された許可病床91床（3階 外科系病棟45床、4階 内科病棟 46床）の近代的病院です。平成8年6月には老人デイケア「ふれあい」開設、平成11年4月には泌尿器科を開設し、現在は内科、呼吸器科、胃腸科、消化器科、外科、整形外科、泌尿器科、肛門科、リハビリテーション科、放射線科を標榜し、常勤医は理事長を含め7名で、診療時間は平日8:30～18:00、土曜日8:30～12:00となっています。

整形外科は今年の5月まで福岡大学から2名の医師が派遣されていましたが、今年の6月から当医局から派遣されることになり、1カ月の移行期間をおいて7月1日より樋口先生（手術・木曜日午後スポーツ外来）が非常勤として私が常勤として着任いたしました。現在のところ患者さんは外来30～40名、入院約20名、手術は週2例程度です。赴任当初は当医局から1人目ということで、とても緊張していましたが、今は戸惑い考えまもない程ハードな毎日を過ごしております。

この病院の特徴の一つはスポーツ医学に力を入れていることです。特にリハビリ科（理学療法士：3名）にはトレーニングマシン、筋力測

定機械等の設備が整い効果的なりハビリができるようになっていきます。またリハビリ科長の尾崎先生は日本体育協会公認アスレティックトレーナーでアジア大会、ユニバーシアード大会などの専属トレーナーとして国内外でも活躍されている方で、毎週火曜日と木曜日はスポーツ外来の日を設けていて県内各地からトップアスリートや各チームのマネージャー、トレーナーなどが集まり、各種トレーニングの方法やテーピング指導などを行っています。またリハビリ科の3人は休日でも患者さんの要望があれば競技を問わず各大会に出掛けて行き、ボランティアでテーピング等行っています。そのため疾患としては骨粗鬆症、変形性脊椎症、膝関節症、リウマチなど慢性疾患に加え骨折や靭帯損傷、スポーツ外傷も多いのです。

今この病院に来て様々なトップアスリートを診察する機会に恵まれ、この経験を今後少しでも患者さんに還元できればと日々頑張っています。

最後になりますが、経験未熟で大学医局の先生方をはじめ、同門の先生方には今後とも何かとお世話になるかと思いますが、ご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

長崎労災病院

井上 篤

今回、7月より新たに勤務することとなりました長崎労災病院は佐世保市にあり、長崎北部全域、佐賀一部の中核を担う病院です。高須賀副院長（股関節専門）をはじめ、小西部長（脊椎専門）以下4名の部長他、私も含め10名の整形外科医がいます。昨年11月に改築された病院はさらにスケールアップし、評判を聞きつけて数多くの患者さんが受診に訪れます。また他医からの紹介もあり、手術数は年間1200~1300例という多さです。全国の労災病院でも1、2の収益をあげ、長崎大学の関連病院の中でも最も症例数が多いようで、研修に来る先生には人気のある病

院と聞いています。

ベッド数は整形外科だけで約130床を占め、それぞれが主治医制で担当しています。外来は4診で行い、私は週2回新患外来を行っています。外来以外の日は必ず手術についています。外傷、脊椎（脊損も含め）等全ての整形分野を網羅しており、未熟な私にも執刀する機会が増え胃が痛む毎日です。それでもかなりの症例を経験でき大変充実感があります。ちなみにある週の手術スケジュールをみてみますと以下のような感じ

月	頸 髄 損 傷	拡大術	全
	右鎖骨遠位端骨折	骨接合術	全
	腰部脊柱管狭窄症	開窓術	全
	左変形性股関節症	R A O	全
	頸 髄 症	拡大術	全
火	頸 髄 症 術 後	抜釘(オライオン)	全
	右第3趾外反	抜釘	局
	右大腿骨転子部骨折	エンダー抜釘+人工骨頭	腰
水	右足関節捻挫	グラス法	腰
	右変股症	再置換術	全
	化膿性脊椎炎	開胸搔爬、骨移植	全
木	右足尖足	矯正骨切り術	全
	腰部椎間板症	DIR+PLF	全
	左Smith骨折	骨接合術	全
	左足関節骨折	骨接合術	腰
金	大腿骨頭壊死	人工骨頭置換術	腰
	右母趾伸筋腱断裂	腱縫合	腰
	頸 椎 症	拡大術	全
	右変形性膝関節症	T K A	腰

※今後も後任の先生方がいらっしゃるようになると思いますが、数多くの手術を経験できますのでやる気のある先生は是非来て下さい。

第5回日本リハビリテーション 医学会九州地方会

学会担当 黒木 龍二

平成11年2月21日(日)、宮崎厚生年金会館におきまして第5回日本リハビリテーション医学会九州地方会、および第17回九州・沖縄地区認定臨床医生涯教育研修会を開催させて頂きました。本会の宮崎での開催は2回目で前回は大学の講義室での開催でしたが、会員の増加に伴いまして地方会の規模も大きくなり、今回は同会館での開催となりました。

今回の地方会参加者は179名で、特別講師には日本医科大学の木村哲彦先生をお迎えし、20年間に渡り脊髄損傷の研究に携わってきた貴重なご講演を拝聴させて頂きました。一般演題には18題の発表があり、リハビリテーション医学の最新の研究および情報につきまして活発な討論がなされました。また引き続き開催されました教育研修会におきましては、産業医科大学の舟

谷文男先生および大分医科大学の鳥巢岳彦先生両講師による、介護保険制度および変形性膝関節症に関する教育講演が行われ、多数の先生方にご参加頂きました。

整形外科のみならず、あらゆる診療科がリハビリテーション医学と密接に関連しております。またリハビリテーション医学が独立した科として日々進歩していることは周知の通りであります。当大学でも単独診療科としてリハビリテーション科が独立し、当大学のリハビリテーションシステムを早々に確立すべきであると本学会を通して強く実感致しました。

最後になりましたが、本学会の開催にあたりましてご支援、ご協力頂きました関係機関、各位に深く御礼申し上げます。



第17回九州リウマチ学会を終えて

帖 佐 悦 男

平成11年3月13、14日に当教室担当にて第17回九州リウマチ学会が開催されました。

特別講演として、長崎大学第一内科教授江口勝美先生と東京慈恵会医科大学整形外科教授藤井克之先生にそれぞれ「病因・病態」と「治療法」につき御講演していただきました、ランチョンセミナーとして京都府立医科大学内科講師佐野統先生に「COX-2」につき御講演していただき非常に益することが多く、この場をお借りし御礼申し上げます。主題としてはリウマチとアミロイドーシス（内科）とRAの脊椎病変（外科）および一般演題で63題の演題が発表されました。

どのセッションも活発な討論が行われ、多くの演題を1日半で消化しましたので座長および演者の先生方には、時間を限らせていただき申し訳ございませんでした。特に本学会はリウマチに関し内科および整形外科の先生方が一同に会し、それぞれの立場から討論することができ非常に有意義であったと思っております。

教室の事務の方々をはじめ関連病院・医局の先生方の御協力のおかげで、本学会を無事に終了することができました。また、同門の先生方の有形無形の御協力に対しましても紙面をお借り致しましてお礼を申し上げます。



夫を語る

今回から、日ごろ内助の功で先生方を支えて下さっている奥様にも登場していただき先生方について語っていただこうと思い企画致しました。

第1回目として、現在、獅子目整形外科に勤務しておられる尾田朋樹先生の奥様をお願い致しました。

- (1) 先生を動物に例えると何ですか。それはなぜですか。
犬ですね。家族思いで、誠実なところでしょうか。
体型だけなら、ゴリラなんですけど……。
- (2) 奥様の手料理で先生の好物は何ですか。
カレーと回鍋肉ですね。
- (3) 家にいるときは先生は主に何をしていますか。
パソコンで遊んでいるか、趣味のカメラや車の雑誌を読んでいます。
- (4) 先生の健康のために奥様が一番気を遣っていることは何ですか。
ストレスがたまらないように…ということですね。
- (5) 時々「亭主元気で留守がいい」と思うことがありますか。
最近、当直がないので、いつも在宅しているので、たまには当直があってもいいんだけど……とは思います。
- (6) 子供の教育や育児について先生は協力してくれますか。
出きる範囲でやってくれているとは思います。
- (7) 奥様から見て先生のいいところはどんな点ですか。
私にないところがあって、できないところはフォローしてくれる点と子供に対して、あまり感情的にならずに接してくれる点ですね。
- (8) 先生に敢えて何か注文をつけるとすれば何ですか。
普段は子供とも、遊んでくれるのですが、自分のしたい事があると、約束事を守らず、自分のしたい事を優先する事があるので、もう少し我慢してくれると、助かるんですが……。
- (9) 先生は父親として何点ですか
80点でどうでしょう！
- (10) ずばり、先生は夫として何点ですか。
60点という事で！

尾田先生の奥様には、答えにくい質問にも気軽に答えていただき誠に有難うございました。

認定医試験を終えて

高千穂町立病院 飯 干 明

まず初めに、今回の試験に関しお忙しい中、御指導、御協力頂いた諸先生方に心からお礼申し上げます。

さて、認定医試験を終えて、特に自分が感じた良かったこと、悪かったことを箇条書きにしてみます。

良かったこと

- ・久しぶりに同期の先生達皆に会えたこと

口頭試験前夜、正一先生と武郎先生3人で徹夜したが、教えるもの、教えられるものの立場は学生の頃と変わっておらず、人間年をとっても本質的なことは変わらないと改めて感じた。

- ・口頭試験に、過去問全てに目を通し望んだが、症例呈示は「頸椎捻挫」で和やかに試験

が進んだこと。

悪かったこと

- ・試験会場が遠かったこと。

初日は移動にほとんど費やしてしまった。

- ・宿泊ホテルの近くにコンビニ（タクシーで買い出しに出掛けた）食事するところがなくホテル内のレストランでかなり高額なお金を使ったこと。

最後に、認定医となりましたが、本物の整形外科医には程遠く、今後更なる研鑽を積んでいこうと考えております。

田島先生をはじめ、関連病院の諸先生方の引き続きの御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

認定医試験を終えて

後 藤 啓 輔

認定医試験を終えて早、10カ月が経ちました。試験のため、1カ月間抄読会を外して頂きました。医局業務を少し減らしていただきありがとうございました。

もうどんな試験だったかあまり思い出せないのですが、口頭試問の題材が医療訴訟になりそうな場面であったならどうするといった、現在の時勢に沿った問題でした。私も去年の夏に同

じ様な場面に体験し思ったことは、脊椎の手術などは、成功しても保険点数は高々2～3万点にすぎず、術後予期せぬ事態になった場合数千万から数億が必要らしく割に合わないということです。

これからの時代、大手術をする場合、バック

がついているところでなければできないと思うのは私だけでしょうか？

最後に、認定医の症例を一緒に集めていただいた関連病院の先生どうもありがとうございました。

認定医試験を終えて

坂本 武郎

試験が終わり、まだ8カ月しかたっていないのに早くもあれだけ詰め込んだ知識が頭の中から消え去っていくのがわかる今日この頃です。

自分では、国試のときより勉強したような気がするのに、他のメンバーから「あまり勉強せずにとおりやがって」みたいなことを言われる、努力が報われないタイプの私ですが、何はともあれ、10人そろって合格したことはとてもよかったと思います。

これから試験を受ける先生方へのアドバイスとしては、書類審査の症例を集めるのがかなり

大変ですので、今のうちから使えそうな症例はしっかりとマークし準備していた方がいいと思います。私の場合、子供の症例でいいのがなく、鎖骨骨折の観血的治療の症例を出したところ、面接の最初から最後まで文句を言われればなしでした。

認定医というものになったとはいえ、知識も技術もまだまだ足りないということは、自分でもよく解っているので今後とも努力していきたいと思います。（でも、試験はもう一生受けたくない）

認定医試験を終えて

関本 朝久

現在、熊本大学遺伝研にて、遺伝子組換えマウスの研究を行っています。今年認定医試験受験の機会を頂きましたが、臨床の機会が少な

ったため、マークシートや口頭試問に対応できるかどうか非常に不安でした。

しかし、多くの先生方からアドバイスをいた

だいて合格することができました。この合格はまわりの先生方のおかげだと思っています。

また今回の試験では、これまでの自分の不得手だった分野の整理ができ、大変有意義でし

た。口頭試問では試験官の先生に自分の研究を支持していただきました。

今後はこの認定医試験での経験を臨床、及び研究に生かしていきたいと思います。

認定医試験を終えて

福元 洋一

今年1月に千葉で認定医試験が行われ、おかげさまで無事合格することができました。昨年8月に10症例の考察をまとめながらもっと前もってやっておけばよかったといつもながらに後悔しながら締め切りにあせりながら速達で送り、試験勉強は今度こそ早くとりかかろうと決心するも、結局は切羽詰まってから始めてしまった。学生時代を思い出しながら、時間との勝

負でなんとか一通り問題集に目を通し、もう一度見直すとすべてを忘れていて不安になる日々を過ごし、もう2度と受験はいやだと思い知らされてしまった。しかし、基礎など勉強できたことはすこしは役にたったと思います。これから受験する先生方も、あせらないでいように頑張ってください。

認定医試験を終えて

本部 浩一

無事に全員が合格出来た事は何よりも良かったと思います。

御指導下さった諸先輩方には、大変感謝しております。

問題集を初めて開いた時の難しさに自分の不勉強を痛感し反省するいい機会になりました。

会場が成田という事もあり、勉強に集中できた事も大きかった気がします。

認定医を終えて

山口 政一朗

認定医試験の勉強を始めた当初は臨床だけではなく、基礎分野知識も要求され最初は、正直言って面倒く感じていましたが、臨床においても知識及び経験不足を思い知らされ、非常に焦ったのをよく憶えています。おそらくこの先基礎

を含めた整形外科領域全般を勉強することはあまりないと思いますし、日々の診療を客観的に考えられる良い機会ではないだろうかと感じました。来年受験される先生方は頑張ってください。

認定医試験を終えて

渡邊 信二

認定医試験が終わり、早や8カ月が過ぎようとしている。我々10名は一人の不合格者もなく全員無事に認定医となれた。一人は点数的に結構やばかったみたいで合格通知がくるまではらはらしていたようだ。逆に我々の中で最高点を取ったのは臨床経験の少ないH本くんが流石と言わざるを得ない。さて、認定医になったからといって給料が上がるわけでもなく、日常の忙しさに変わりはない訳だが、整形外科医として

の自信というか責任感というかそんなものは出てきたような気がする。試験までの数カ月間は忙しい中にも時間を見つけ勉強したし、基本的な知識をもう一度確認するには良い機会であった。ただ、年齢という壁は遺憾ともし難く記憶することの困難さを痛烈に実感した。脳細胞はどんどん壊れていくだけで再生はしないみたいなので、今ある知識が消えないように努力していこうと思う。

認定医試験を終えて ～ 1 億総認定医～

国立療養所宮崎病院 渡部 正一

「向上心がなければ、これが人生最後の試験となるのだろうか。」そんなことも頭の中をよぎった。約9割が通る認定制度自体にやや疑問も抱いたが、その分失敗はいやである。何せ、Q&Aを直前に1回通したかどうかというサ○モト君（決して、セ○モト君ではない）も受験するのだ。自分はちょうどジャイアンツみたいなもんで、専攻逃げ切り最後に2点取られても勝ちのパターンが多い。自分のことはもとより、親友の彼のことを人一倍心配していた。成田では受験する仲間達と夕食をともにしたが、今日が本番だからと遠慮するサ○モト君に躊躇なくアルコールを注ぎ応援した。しかし、彼は合格した……。何というか、自分が合格した喜びとは別の、飲酒検問を突破された警察官のような屈辱感もなぜか多少残った。おまけに彼の認定証は、自分のと同じものであった。乙でも丙でもなかった。

現在、自分は関連病院にて毎日の診療に携わっている。別に認定医前と特別変わったところがあるわけでもない。直面した症例について疑問を持ち、調べ、不安を抱えながらも治療を施

している。ムンテラに使うネタを教科書から拾ってくる。何が変わったのかといえば、履歴書に一行増えただけである。しかし、これでいいのかもしれない。受かっただけでも良かったのかもしれない。だってあのサ○モト先生と同じ認定医に成れたのだから……。

認定医になったら自分の専門を決めようなんて考えていたけれど、未だ決めきれないでいる。何かを専門にしようと思っても、症例数と良き指導者と十分な時間が揃わなければ苦しいという事に今頃気づいている。ただ、自分には無理だろうと思う分野は少し増えた。

今後、標榜医の資格をはっきりとさせ、認定医制度の意味をもう一度検証すべきである。そうでなければ、あんな高い受験費用、そして維持費用は全くもって無駄である。ずっと前から分かっていたことだったが、結局改善されてないので今更ながら呆れている。しかし、開業したら額縁に飾らなければならないだろうか……。つまらないことを考えるより、もっと勉強して尊敬される医者になろう。

認定医試験を終えて

市民の森病院 吉田 好志郎

整形外科認定医試験。私にとって人生で最も大変な試験でした。私は今まで多くの試験を受けてきました。毎朝パチンコ店の前に並び、夕方6時から夜中まではか弁でバイトしながら、「まあ、いつかは受かるだろう。人生長い、気長に行こう。」と考えていた大学入試。「どうせいつかは受かる。落ちても1年間ゆっくり遊べる。どちらも悪くない。」とのぞんだ医師国家試験。いずれも独身の上に社会的に責任のなかったあの頃。勉強だけしとけば、大抵の事は許されたあの頃。しかし整形外科認定医試験だけはその様なわけにはいきませんでした。なんといっても、すでに医師という責任のある仕事についている上、養っていく妻と3人の子供がいる。責任の重圧と、初めての緊張を感じる試験でした。今回は絶対に落ちてはいけない。そんな使命感を感じ試験の半年前から勉強を始めました。しかし、そんな時に限って、まるで私を試すかのようにいろんな試練がありました。まず第1の試練は球磨郡郡民体育大会でした。当時多良木町立病院に勤めていた私は、100m走の多良木町代表になってくれと頼まれました。大会の日がちょうど認定医の症例送付の閉め切りの頃だった事を知らず、軽く引き受けてしまいました。しかし症例が思った様にまとまらず、やっぱり大会には出場できないと断りの電話をしたところ、今更そんなこと言われても困る（ごもっともです。）と言われました。まあしかたないか、100mぐらいのおあって事ないやろと考えておりましたが、いざ練習に参

加してみると、100mやっと完走する程の体力しなくて、気づいた時は大会まで10日程しかありませんでした。症例は何とか閉め切りぎりぎりです。送付して、あわてて練習を開始しました。しかしそう簡単に体力はつくはずがありません。決勝に残ったものの後半70mすぎからスピードダウン。記録は12秒3と35歳の年齢にしてはまずまずだったと思うのですが、入賞する事はできませんでした。その後、体調を戻すのにも苦勞したことは言うまでもありません。

第2の試練は結婚式です。多良木病院の職員より結婚式の実行委員長をしてくれと頼まれました。実行委員長て何をするのか知らないまま、まとも軽く引き受けてしまいました。球磨郡という所はとても飲み会の盛んな地域で、結婚式もしかり。なんと結婚披露宴を2回もやるんです。実行委員は招待客の準備から車の手配まで新郎新婦に代わって結婚式のプロデュースをするのです。（結婚式をあげた経験のある人は結婚式の準備がいかに大変かわかりになると思います。）また実行委員の最も大事な仕事は余興の出し物を決めること。当然自分たちも出し物をしなければいけません。やるからにはウケなければいけないと日夜実行委員のメンバー（ほとんど飲み友達、遊び友達なんですけど）と集い、結婚式の準備のかたわら企画・練習に励みました。とにかく目立つのが好きな男6人衆でセクシーダンスを披露しました。（内容はご想像におまかせします。）田舎の結婚式だったせいもあり、そのたぐいの色物は結構好

評だったようです。無事結婚式も終わりやっと勉強に専念できると思っていたところ、今度は別の結婚式で、院長の代わりに主賓挨拶をしてくれと頼まれました。これにはかなり抵抗がありました。友人代表挨拶や余興などであれば快く引き受けるのですが、仲人挨拶の次に私のような若造が、多くのお偉方にまじって挨拶なんぞできるはずがありません。が、理学療法士をしている新郎より強く頼まれ、結局引き受ける事となりました。しかし何日考えても挨拶の台詞がうかばないのです。何の肩書きもない35歳の若造が説教じみた偉い文句を言ったところで片腹痛いだけですし、かといって新郎の紹介に毛が生えたような挨拶だったら友人挨拶と変わりません。しかし人間切羽詰まれば何とかなるもの。ある日突然、詐欺師のように言葉がわき出てきました。自分なりの言葉で適当にウケを狙いながら無事こなすことができました。しかしその後、また色物踊りを踊ってくれと言われと頼まれました。院長代理で挨拶した後に、そんな踊り踊って良いのか？と思いましたが、踊りたそうにしているメンバーを見てまあいいかとまた踊らせて頂きました。

やっと本格的に勉強に取り組む様になると、最も大変な試練が待っていた事に気づきました。平成10年5月に3人目の娘が誕生し、にぎやかな3姉妹となりました。とても可愛い子供達なのですが、私が病院から帰ると、待ってましたと5歳と2歳の娘達のパパ遊んで攻撃。疲

れを知らない子供達は、眠りにつくまで絵本に抱っこ、お馬さんと私を攻め続けるのでした。2LDKのアパートに私の避難所はなく、勉強していても認定医試験問題集や資料の上に乗ったり、食べ物をこぼしたり。3人をお風呂に入れ、やっと眠ったと思ったら今度は末っ子の夜啼き攻撃。おまけによくお乳を飲む分よくウンチもする。いつも玉砕していました。これが土曜日曜となると更に戦火がひろがるのです。実家が近かったら子供の面倒を見てもらえるのにな。試験、今年はダメかもしれん。と何度か妻にこぼした事もありました。しかし父親を信頼しきっている子供達の無邪気な寝顔を見ると、不思議と疲れも消えてゆき勉強と仕事に意欲が湧いてきます。子育てに疲れて寝ている妻を見ると、大変なのは俺だけじゃないんだから、がんばらないとな。いつも妻には感謝していました。医者である前に父親であり夫であるんだから、それをおろそかにして勉強してもつまらない。子供の気が済むまで遊んでやり、夫・父親としての仕事をこなしたうえで認定医試験に合格しなければならぬと生まれて初めて自分に厳しくがんばってきました。認定医試験に合格した通知を受けた時は、試験に受かった事よりも、苦しい状況から逃げることなく乗り切れた事の方が大きな自信になったような気がします。今でもあの頃を振り返るとよく受かったなと思います。資格を得た以上に大切な物を得た試験でした。

私と医局旅行

川野彰裕

今年も恒例の医局旅行を9月11、12日に、行いました。宿泊は、熊本県南関町のセキアリゾートで、11日の夕方に現地集合という形をとりましたが、今年は例年になく家族で参加していただける先生が多く、総勢43名でした。

それぞれ1日目は計画があったようですが、ちょうどこの週末は、低気圧の影響で九州西部、特に熊本県地方は豪雨でした。高速道路を中心に、いたるところで交通規制や通行止めがあり、皆さんずいぶん苦労してホテルに到着されたようでした。医局長の黒木先生ファミリーも、高速道路で長い間立ち往生されたそうです。また、サーキット場で自慢の愛車を走らせる予定だった後藤啓輔先生は、豪雨の中、2時間も門の前で待っていましたが、結局サーキット場はクローズで、まぬけなことにホテル内のゴーカート場でブイブイいわせていたそうです。私たちも田島教授以下7名の有志で、ホテル近くの九州ゴルフクラブ小岱山コースでコンペを計画し、6時30分に宮崎を出発しました。宮崎は快晴でしたが、加久藤トンネルを過ぎたあたりより雨となって、熊本市からは前方が確認できないくらいの豪雨でした。菊水で高速を降り、ゴルフ場に向かいましたが、その雨と雷はすさまじく、国道沿いの玉名川は今にも氾濫しそうなほど増水していました。当然、ゴルフ場はクローズ状態で、山本先生と“玉名でパチンコでもしますか！”などと言いながらクラブ

ハウスでコーヒー飲んでいましたが、なんということか、10時過ぎには、うそのように雨が上がり、無事、ゴルフコンペを行うことができました。（ほとんど雨の降らない野球の朝練、これぞ田島マジック???）途中は晴れ間もみえ、また、コースの水はけもよく、楽しくコンペができました。成績は、決してやさしくない山岳コースでしたが、18番ホールで足がつるというアクシデントに打ち勝った川越先生がグロス92、ネット76という好スコアでみごと優勝されました。田島教授も3位と健闘されました。ホテルセキアの温泉で日ごろの疲れを癒したあと、7時からは宴会となりました。皆さん悪天候の中、集合していただき、大変盛り上がった宴となりました。今回は子供さんも多かったため、毎年恒例の“整形外科、夜の懇話会”は中止となりましたが(?)、研修医の公文先生、増田先生、後藤栄一先生による出し物は、非常に頭がいい上品な“しもねた芸”でした。また、宴会後は隣接するボーリング場やカラオケボックスで夜がふけるまで遊びました。若い看護婦さんを含め何人かは、朝早くまで遊んでいたそうです……。

2日目も雨の勢いはおさまらず、阿蘇観光や遊園地などを計画していたものの、結局、ほとんどの人たちはそのまま帰宅されたようです。私を含め4名は2日目もゴルフを計画しており（みんな、あきれてましたが）、ホテルを7時

30分に出発し、玉名市のゴルフ場に向かいましたが、さすがに、雨と雷の勢いはおさまらず、残念ながらクローズとなり断腸の思いで宮崎に帰ることとなりました。（しかし、宮崎は晴れていたため午後から田野町の宮崎国際空港クラブでプレイしました）

私的には、ほとんどゴルフ旅行でしたが、皆さん、温泉にはいたり、家族サービスをした

りと、天候には恵まれませんでしたでしたが楽しい医局旅行だったと思います。今回の幹事でした後藤啓輔先生、渡邊信二先生、お疲れ様でした。また、留守を担当された先生方、ありがとうございました。またまた、気胸で入院していた安藤先生、“来年はいっしょにゴルフ旅行、いやいや、医局旅行に行きましょう”。



新入会員自己紹介 (順不同)



氏名 公文崇詞
生年月日 昭和46年8月9日生
出身高校 愛媛県立新居浜西高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 B型

実家のある愛媛に帰ろうかと迷っていたら「スポーツ医学をするなら宮崎だ」と言われ入局させて頂きました。仕事になれずドタバタしながら、自分の整形外科の知識の少なさに打ちのめされる毎日を送っております。早く仕事になれて自分の勉強に充てられる時間を作りたいと思っております。未熟ものですが、今後とも御指導の程、お願い致します。



氏名 後藤英一
生年月日 昭和49年6月24日生
出身高校 宮崎県立高鍋高校
出身大学 筑波大学
血液型 O型

今年入局させて頂きました後藤英一と申します。

出身大学は筑波大学ですが、小・中・高校はずっと高鍋にて過ごしておりました。早いもので研修医となって5カ月が過ぎようとしております。

当初は勝手の全く分からない病院での仕事に緊張し、またその忙しさから食欲が減退し体重の減少を憂っていたのですが、最近はストレスをむしろ夜中帰宅してからの過食にて解消するようになってしまい反動による肥満を心配しております。

宮崎の海を楽しもうと今春スキューバダイビングを覚えたのですが、なかなか暇もお金も利用できない有り様です。

仕事に関しては未だ至らぬ点が多く、周りの諸先生方に迷惑をかけながらも助けていただいているお陰で何とか業務を続けることができる状態です。このような未熟者ではありますが、諸先生方には今後とも公私にわたり御指導いただけますようお願いいたします。

プロフィール



氏名 増田 寛
生年月日 昭和46年8月21日生
出身高校 宮崎県立宮崎南
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O型

宮崎市出身です。大学では水泳部に所属していました。入局して半年経ちましたが先生方に野球を含めて教えて頂き、何とか頑張っています。

今後とも御指導よろしくお願い致します。



氏名 魏 國雄
生年月日 昭和17年12月21日生
出身高校 ラ・サール高校
出身大学 京都大学
血液型 A型

本年、7月1日より、田島教授のお取りはからいで、同門会の一員に加えていただくことになり、郷里で仕事ができるようになり、感謝している次第です。勤務することになりましたあたご整形は症例が多く、日々の診療を楽しんでおります。毎週金曜日の参加させていただいている、大学のカンファレンスは、しばらくぶりに、医療の最前線に触れ、充実した一日となっております。趣味は、学生時代から始めたスキューバダイビングで、バードウォッチングならぬアンダーウォーターウォッチングに、尽きせぬ魅力を感じておりますが、始めると仕事のことを完璧に忘れてしまうので、現在は、スキンドайビングにとどめております。今後ともよろしく願います。

教室同門の研究業績

◆著 書

1) 一流選手のスポーツに伴う疲労骨折

田島直也, 帖佐悦男, 園田典生
疲労骨折—スポーツに伴う疲労骨折の原因、診断、治療、予防—
編集 武藤芳照, p114-125, 文光堂, 東京, 1998.

2) 脊椎分離・すべり症

田島直也
今日の治療指針1999 総編集 多賀須幸男 尾形悦郎, p649-650,
医学書院, 東京, 1998.

◆原 著

1) 実態調査に基づく腰痛検診のありかたの検討

帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 黒木浩史, 松元征徳, 後藤啓輔
整形・災害外科, 41 (3) 199-204, 1998.

2) 頸部脊柱管狭窄症のX線学的評価(身長との関係について)

川野彰裕, 田島直也, 久保紳一郎, 作 良彦, 松元征徳, 黒木浩史
整形外科と災害外科, 47 (1) 44-47, 1998.

3) 当科における人工骨頭置換術の成績について

石田康行, 帖佐悦男, 柏木輝行, 園田典生, 松岡知己, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (1) 137-140, 1998.

4) 人工股関節置換術骨セメント充填度の検討

松岡知己, 帖佐悦男, 柏木輝行, 園田典生, 石田康行, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (1) 141-143, 1998.

5) 股関節の手術におけるModified Transgluteal Approachの経験

栗原典近, 帖佐悦男, 柏木輝行, 園田典生, 松岡知己, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (1) 184-186, 1998.

- 6) 二分脊椎による外反踵足の歩行分析—床反力計などによる評価—
渡邊信二, 山口和正, 河原勝博, 川越正一, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (1) 204-208, 1998.
- 7) 陳旧性足関節靭帯損傷における関節包縫縮術の適応について
浪平辰州, 伊勢紘平, 工藤勝司
整形外科と災害外科, 47 (1) 327-332, 1998.
- 8) DEXAによる踵骨, 腰椎, 大腿骨頸部骨塩量とBMIとの関係
後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 川越正一, 久保紳一郎,
鳥取部光司, 黒木浩史
整形外科と災害外科, 47 (2) 465-468, 1998.
- 9) 手指骨に生じた骨膜性軟骨腫の2例
有住裕一, 川越正一, 蛭原啓文, 深野木由姫, 中村誠司, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (2) 499-502, 1998.
- 10) 長管骨転移性骨腫瘍に対する骨接合術(セメント併用)の経験
前田和徳, 帖佐悦男, 柏木輝行, 園田典生, 松岡知己, 石田康行,
田島直也
整形外科と災害外科, 47 (2) 532-536, 1998.
- 11) 術後回収式自己血輸血装置(CBC II)の使用経験
飯干 明, 長鶴義隆, 柳園賜一郎, 長田浩伸
整形外科と災害外科, 47 (2) 569-573, 1998.
- 12) 多数指切断に対する治療
中島英親, 寺本憲市郎, 平野哲也, 原田香苗, 米満弘之
整形外科と災害外科, 47 (2) 585-587, 1998.
- 13) 鏡視下TFCC部分切除術の治療成績
平野哲也, 寺本憲市郎, 武田浩志, 中島英親, 米満弘之
整形外科と災害外科, 47 (2) 588-590, 1998.
- 14) 投球前後における肩関節MRIの変化
安藤 徹, 市原正彬, 田島直也, 帖佐悦男, 川越正一, 園田典生
樋口潤一, 小牧一磨, 田辺龍樹
整形外科と災害外科, 47 (2) 671-674, 1998.

- 15) 股関節インプラント感染に対するセメントスペーサーを用いた二期的再置換術
帖佐悦男, 田島直也, Leunig M, Ganz R
日本整形外科学会雑誌, 72 (2) S27, 1998.
- 16) 腰椎すべり症に対する後側方固定術の検討- 3年以上経過例について-
黒木浩史, 田島直也, 久保紳一郎, 鳥取部光司, 作 良彦,
松元征徳, 後藤啓輔, 帖佐悦男
日本整形外科学会雑誌, 72 (3) S653, 1998.
- 17) 3-S Instrumentation (田島式) による脊椎後方固定術- 2年以上経過例について-
田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 帖佐悦男
日本整形外科学会雑誌, 72 (3) S710, 1998.
- 18) 掌蹠膿疱症発症後約30年目に関節症状の出現した掌蹠膿疱症性骨関節炎の1例
税所幸一郎, 谷口博信, 吉松成博, 長田浩伸, 田島直也
リウマチ科, 19 (4) 415-419, 1998.
- 19) Region-specific expression of murine Hox genes implies the Hox code-mediated patterning
of the digestive tract
Tomohisa Sekimoto, Kumiko Yoshinobu, Michiko Yoshida, Shigeru
Kuratani, Shoji Fujimoto, Masataka Araki, Naoya Tajima, kimi
Araki, ken-ichi Yamamura
Genes to Cells, 3 pp51-64, 1998.
- 20) 側弯症
田島直也, 作 良彦
医学と薬学, 39 (5) 929-935, 1998.
- 21) 腎機能障害を合併した慢性関節リウマチ患者に対するミゾリビンの使用経験
税所幸一郎, 谷口博信, 吉松成博, 花房明憲
九州リウマチ, 17 pp69-73, 1998.
- 22) 慢性関節リウマチ治療中にIgA の著減をきたした2症例
税所幸一郎, 木村千仞, 田島直也
九州リウマチ, 17 pp74-77, 1998.

- 23) 仙骨全摘再建術後に生じたinstrument折損例の経験
黒木浩史, 田島直也, 久保紳一郎, 鳥取部光司, 作 良彦, 松元征徳
西日本脊椎研究会誌, 24 (2) 209-212, 1998.
- 24) Posterolateral Lumbar Fusion - Biomechanical Study and Clinical Results
Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Koji Totoribe, Shinichiro Kubo,
Hiroshi Kuroki
Journal of Musculoskeletal Research, 2 (2) 101-107, 1998.
- 25) 大腿骨転子部骨折に対する γ -nail 法による不良例の検討
山口政一朗, 黒田 宏, 川添浩史, 田島直也, 川越正一, 谷口博信
整形外科と災害外科, 47 (3) 850-853, 1998.
- 26) 棘突起縦割式頸部脊柱管拡大術における術前術後の脊柱管面積の比較検討
濱田浩朗, 田島直也, 久保紳一郎, 作 良彦, 松元征徳, 平川俊一
整形外科と災害外科, 47 (3) 918-920, 1998.
- 27) 女子陸上長距離選手のシンスプリントに関するX線学的検討
江夏 剛, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (3) 980-982, 1998.
- 28) 手関節痛を主訴に来院した尺側手根伸筋拘縮の一例
結城祥一, 川越正一, 蛭原啓文, 深野木由姫, 安藤 徹, 有住裕一,
田島直也, 河野雅行
整形外科と災害外科, 47 (3) 992-994, 1998.
- 29) MR I 所見から見たRA頸椎病変に対する後方固定術の効果
桑原 茂, 金井純次, 内田秀穂, 田島直也
整形外科と災害外科, 47 (4) 1175-1179, 1998.
- 30) 大腿骨内側顆特発性骨壊死のX線学的検討 - 変形性膝関節症との比較 -
本莊憲昭, 緒方公介, 原 道也, 城島 宏, 藤原 明, 山田昌登嗣
整形外科と災害外科, 47 (4) 1279-1282, 1998.
- 31) 各職種間における作業姿勢と腰痛について,
松元征徳, 田島直也, 帖佐悦男, 柏木輝行, 久保紳一郎, 黒木浩史
日本腰痛会誌, 4 (1) 31-35, 1998.

- 32) 腰椎固定術における椎間関節固定の影響—有限要素法を用いて—
鳥取部光司, 田島直也, 帖佐悦男, 後藤啓輔
日本臨床バイオメカニクス学会誌, 19 pp55-59, 1998.
- 33) 骨セメント使用大腿骨ステムにおけるセメントテクニックの違いによる初期固定力の実験的検討—
力学的検討—
松岡知己, 帖佐悦男, 柏木輝行, 園田典生, 田島直也
日本臨床バイオメカニクス学会誌, 19 pp445-447, 1998.
- 34) Faux Profil 像の意義—股関節における単純X線False Profile View—
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 長鶴義隆
骨・関節・靭帯, 11 (9) 1141-1145, 1998.
- 35) False profile 像による股関節症のX線判定基準
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 園田典生, 松岡知己, 田島卓也
長鶴義隆
Hip Joint, 24 pp374-376, 1998.
- 36) 広範慢性関節リウマチ頸椎病変に対する後頭骨・胸椎間固定術
久保紳一郎, 田島直也, 作 良彦, 黒木浩史, 松元征徳, 後藤啓輔
別冊整形外科, 34 pp205-210, 1998.
- 37) 若年者の超音波踵骨骨量測定について—特に運動習慣との関係—
平部久彬, 田島直也, 帖佐悦男
宮崎県医師会雑誌, 22 (2) 85-90, 1998.
- 38) T K A (NexGen) の R A に対する使用経験
長田浩伸, 税所幸一郎, 吉松成博
宮崎県医師会雑誌, 22 (2) 116-119, 1998.
- 39) 離断性骨軟骨炎の観血的治療の経験
塩月康弘, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一, 益山松三,
矢野良英
宮崎県医師会雑誌, 22 (2) 120-125, 1998.
- 40) 偽関節部横断骨切り術
渡辺 雄, 太田博人, 長田浩伸, 谷島 満, 本部浩一, 野中隆史
骨折, 20 (2) 701-704, 1998.

- 41) Comparative Study of MR Myelography and Conventional Myelography in the Diagnosis of Lumbar Spinal Diseases,
Hiroshi Kuroki, Naoya Tajima, Shunichi Hirakawa, Shinichiro Kubo, Ryuji Tabe, Yousuke Kaki tsubata
Journal of Spinal Disorders, 11 (6) 487-492, 1998.
- 42) 立位姿勢制御の動的高次活動の解析
田島直也
日関外誌, 17 (2) 81-82, 1998.
- 43) 福祉用具の開発研究－その課題と展望－
津山隆一, 黒木俊政, 楠 悟, 横山浩一郎, 浜田光信, 長谷川新,
谷口 洋, 茂 雄二, 福島幸徳, 江本和代, 井上みゆき, 亀井靖子,
長友賢二
平成9年度職員自主研究グループ活動成果報告書, 3 pp5-6, 1998.
- 44) 高校スポーツ選手の基礎体力評価－サッカー選手とラグビー選手の比較－
黒木俊政, 横山浩一郎, 吉田素子, 樋口潤一
'97 みやざきスポーツ科学委員会研究報告書, pp7-13, 1998.
- 45) ACL再建患者の筋力評価－筋力・筋断面積・Performance の関連について－
中村真由美, 黒木俊政, 田島直也, 園田典生, 樋口潤一
九州スポーツ医・科学会誌, 10 pp37-40, 1998.
- 46) intramedullary supracondylar nail による大腿骨遠位部骨折の治療
谷口博信, 黒田 宏
関節外科, 17 (10) 82-88, 1998.
- 47) 宮崎県における成長期サッカー選手のスポーツ傷害調査
樋口潤一, 田島直也, 園田典生, 黒木俊政
臨床スポーツ医学, 15 (8) 905-907, 1998.
- 48) 脳性麻痺児の骨折－当センターにおける最近の動向－
山口和正
脳性麻痺の外科研究会誌, 9 pp56-59, 1998.

◆学会報告

1) CP児の術後骨折

有住裕一, 山口和正, 渡邊信二
第14回九州小児整形外科集談会, 1998, 1, 福岡.

2) ACL再建患者の筋力評価—筋力・筋断面積・パフォーマンスの関連について—

中村真由美, 田島直也, 園田典生, 樋口潤一, 黒木俊政
第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.

3) 膝離断性骨軟骨炎の観血的治療の小経験—鏡視下ドリリングと鏡視下骨接合術の比較—

益山松三, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一, 矢野良英
第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.

4) 外傷性胸鎖関節後方脱臼の1例

山本恵太郎, 佐本信彦, 高妻雅和, 徳久俊雄, 田爪陽一朗,
小林邦雄, 甲斐 佐
第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.

5) 拇趾MP関節痛を主訴として来院した2症例—骨端症 or 疲労骨折—

樋口潤一, 田島直也, 園田典生, 矢野良英
第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.

6) ゴルフによる有鉤骨鉤骨折の3例

河原勝博, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 中川徳郎,
仙波 圭
第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.

7) 再び立方骨症候群について

第19回宮崎県スポーツ医学研究会, 1998, 2, 宮崎.
獅子目賢一郎, 鳥取部光司, 樋口潤一

8) プシラミン投与中に異常なIgGの減少をきたした1例

税所幸一郎, 谷口博信, 吉松成博
第15回九州リウマチ学会, 1998, 3, 熊本.

- 9) R A 頰椎病変による頰髄MRI所見の変化
金井純次, 桑原 茂, 内田秀穂, 田島直也
第15回九州リウマチ学会, 1998, 3, 熊本.
- 10) 若年者における自己血貯血の経験 (1600~2000ml貯血)
川野彰裕, 帖佐悦男, 作 良彦, 柏木輝行, 田島直也
第11回日本自己血輸血学会学術総会, 1998, 3, 大宮.
- 11) 股関節インプラント感染に対するセメントスペーサーを用いた二期的再置換術
帖佐悦男, 田島直也, Leunig M, Ganz R
第71回日本整形外科学会学術集会, 1998, 4, 徳島.
- 12) 腰椎すべり症に対する後側方固定術の検討 - 3年以上経過例について -
黒木浩史, 田島直也, 久保紳一郎, 鳥取部光司, 作 良彦,
松元征徳, 後藤啓輔, 帖佐悦男
第71回日本整形外科学会学術集会, 1998, 4, 徳島.
- 13) 3-S Instrumentation (田島式) による脊椎後方固定術 - 2年以上経過例について -
田島直也, 久保紳一郎, 黒木浩史, 帖佐悦男
第71回日本整形外科学会学術集会, 1998, 4, 徳島.
- 14) One-Stage anterior and lateral release for idiopathic scoliosis preliminary report
Naoya Tajima
The 8th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1998, 4, Miyazaki.
- 15) 当院における慢性関節リウマチの人工関節置換術における自己血輸血
河原勝博, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 仙波圭,
川谷洋右
第14回宮崎県リウマチ研究会, 1998, 5, 宮崎.
- 16) サポートリングのR Aに対する使用経験
池尻洋史, 帖佐悦男, 柏木輝行, 松岡知己, 末永 治, 田島直也
第14回宮崎県リウマチ研究会, 1998, 5, 宮崎.
- 17) T K A (NexGen) のR Aに対する使用経験
長田浩伸, 税所幸一郎, 吉松成博, 谷口博信
第14回宮崎県リウマチ研究会, 1998, 5, 宮崎.

18) 長母指伸筋腱断裂をきたしたRAの1例

内田秀穂, 金井純次, 桑原 茂

第14回宮崎県リウマチ研究会, 1998, 5, 宮崎.

19) 超高齢者の大腿骨頸部骨折の予後

帖佐悦男, 田島直也, 川越正一, 柏木輝行, 黒田 宏, 川添浩史,
田辺龍樹

第35回日本リハビリテーション医学会学術集会, 1998, 5, 青森.

20) 失神患者における下半身陰圧負荷時の筋交感神経活動

田中正一, 國本雅也, 大藤 均

第35回日本リハビリテーション医学会学術集会, 1998, 5, 青森.

21) 広範RA頸椎病変に対する後頭骨・胸椎間固定術の経験

田島卓也, 田島直也, 久保紳一郎, 作 良彦, 黒木浩史, 松元征徳,
後藤啓輔, 濱田浩朗

第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.

22) 90歳以上の超高齢者における大腿骨頸部骨折の予後の検討

川添浩史, 黒田 宏, 福元洋一, 山口政一朗, 川越正一, 谷口博信,
田島直也

第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.

23) 下腿の骨折治療に対するIlizarov創外固定器の経験

寺本憲市郎, 中島英親, 平野哲也, 黒田正義, 米満弘之

第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.

24) ラグビー競技者における頸椎のX線学的検討

江夏 剛, 田島直也, 作 良彦, 松元征徳, 濱田浩朗, 園田典生,
田島卓也

第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.

25) 人工股関節置換術におけるサポートリングの経験

池尻洋史, 帖佐悦男, 柏木輝行, 松岡知己, 結城祥一, 田島直也

第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.

- 26) 股関節周辺腫瘍切除後の欠損に対する大腿後部皮弁の使用経験
安藤 徹, 小牧一麿, 田島直也, 帖佐悦男, 川越正一, 蛭原啓文,
黒木龍二, 末永 治, 河野 立
第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.
- 27) 第11胸椎に発生した動脈瘤様骨嚢腫像を伴う骨芽細胞腫の1例
本荘憲昭, 諫山照刀, 浅川康司, 緒方公介
第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.
- 28) ゴルフによる有鉤骨鉤骨折の3例
河原勝博, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 仙波圭,
川谷洋右
第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.
- 29) 手指外傷性拘縮に対する中島式創外固定器の使用経験
原田香苗, 中島英親, 平野哲也, 寺本憲市郎, 米満弘之
第95回西日本整形・災害外科学会, 1998, 6, 福岡.
- 30) 脱出型腰部椎間板ヘルニア分類における後縦靭帯の意義—顕微鏡視下手術時所見より—
久保紳一郎, 田島直也, 作 良彦, 黒木浩史, 松元征徳, 後藤啓輔,
石田康行, 益山松三
第27回日本脊椎外科学会, 1998, 6, 札幌.
- 31) New Releasing Techniques for Scoliosis; Thoracic Microdiscectomy and Arthrolysis of
Costotransverse Joint
N. Tajima, E. Chosa, S. Kubo, Y. Saku, H. Kuroki, M. Matsumoto
1998 Meeting of the International Research Society of Spinal
Deformities, 1998, 6, Burlington.
- 32) 宮崎県の地域療育
山口和正, 渡邊信二
第10回宮崎県小児保健学会, 1998, 6, 宮崎.
- 33) 当科における脊椎カリエス手術例の変遷
後藤啓輔, 田島直也, 久保紳一郎, 作 良彦, 黒木浩史, 松元征徳,
帖佐悦男
第49回西日本脊椎研究会, 1998, 7, 高松.

- 34) 手指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の一例
河野 立, 岡田麻里, 坂田勝美, 黒木龍二, 神菌 豊, 蛭原啓文,
川越正一, 田島直也
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 35) 近位脛腓関節癒合症の1例
井上 篤, 浪平辰州, 吉田好志郎
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 36) 膝蓋骨上極剥離骨折 (sleeve fracture) の1例
永吉洋次, 岩切清文
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 37) 頸椎棘突起縦割式脊柱管拡大術におけるTread wire sawの使用経験
田爪陽一朗, 小林邦雄, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣,
佐本信彦, 松浦愛二, 牟田口滋, 末永賢也, 門内一郎
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 38) 先天性環椎後弓欠損症の一例
野辺達郎, 飯干 明
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 39) 保存的に治療した外傷性上位頸椎骨折の3例
栗原典近, 酒井健, 森田信二
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 40) 頸椎捻挫における頸椎性彎曲のX線学的検討
深野木由姫, 田辺龍樹, 大田博人, 矢野浩明
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 41) 交通外傷による頸椎捻挫－自賠責保険統計から－
作 良彦, 田島直也, 久保紳一郎, 松元征徳, 後藤啓輔, 江夏 剛,
田島卓也, 桑原 茂
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 42) 当院における鞭打ち損傷について
中川雅裕, 前原東洋, 吉永一春, 吉野 光
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.

- 43) 治療に苦渋した外傷性頸部症候群の1例
谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 田口 学, 仙波 圭,
川谷洋右, 池尻洋史
第36回宮崎整形外科懇話会, 1998, 7, 宮崎.
- 44) 股関節手術におけるModified transgluteal approachの経験
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 松岡知己
第7回MX人工股関節研究会, 1998, 8, 弘前.
- 45) 頸椎化膿性脊椎炎によりミエロパチーを起こした1例
仙波 圭, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 田口 学,
川谷洋右, 池尻洋史
第12回宮崎救急医学会, 1998, 8, 都城.
- 46) 足関節外果皮膚欠損、腱露出創に対する人工真皮(テルダーミスTM)の使用経験
大安剛裕, 藤岡正樹, 田辺龍樹, 大田博人, 矢野浩明, 深野木由姫
第12回宮崎救急医学会, 1998, 8, 都城.
- 47) 作業用エレベーターに挟まれ上腕動脈血栓性閉塞を併発した肘部不全切断の1例
藤岡正樹, 大安剛裕, 田辺龍樹, 大田博人, 矢野浩明, 深野木由姫
第12回宮崎救急医学会, 1998, 8, 都城.
- 48) RA例に対するセメントレス人工膝置換術の短期成績
内田秀穂, 桑原 茂, 金井純次
第16回九州リウマチ学会, 1998, 9, 佐賀.
- 49) RA膝に対するセメントレスTKAの経験(porousとpress fitの比較)
長田浩伸, 税所幸一郎, 吉松成博
第16回九州リウマチ学会, 1998, 9, 佐賀.
- 50) MG-I型人工膝関節置換術後にmetallosisにより下腿巨大cystを形成したRAの一例
相良孝昭, 赤崎幸二, 木村 真, 寺本 弘, 金井隆幸, 安楽喜久,
高橋知幹, 武内晴明
第16回九州リウマチ学会, 1998, 9, 佐賀.
- 51) 慢性関節リウマチに対する多関節手術について
桑原 茂, 金井純次, 内田秀穂
第16回九州リウマチ学会, 1998, 9, 佐賀.

- 52) 医科大学大学生運動部員の整形外科的メディカルチェック
樋口潤一, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 栗原典近, 田島卓也
第24回日本整形外科スポーツ医学会, 1998, 9, 大泉.
- 53) 医学部ラグビー部員の頸椎変化
田島卓也, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 樋口潤一
第24回日本整形外科スポーツ医学会, 1998, 9, 大泉.
- 54) 人工骨頭初期固定に関する実験的研究
柏木輝行, 帖佐悦男, 松岡知己, 田島直也
第13回日本整形外科学会基礎学術集会, 1998, 9, 名古屋.
- 55) Three-dimensional finite element analysis of lumbar spinal fusion
Totoribe K, Tajima N, Chosa E
Transactions of the Third Combined Meeting of the Orthopaedic
Research Societies of the U. S. A., Canada, Europe and Japan, 1998,
9, Hamamatsu.
- 56) 超高齢者の大腿骨頸部骨折の予後
深野木快士, 帖佐悦男, 川越正一, 柏木輝行, 松岡知己, 坂本武郎,
益山松三, 市原久史, 田島直也, 黒田 宏, 川添浩史, 田辺龍樹
第21回宮崎リハビリテーション研究会, 1998, 10, 宮崎.
- 57) R A頸椎病変を有するR A例の骨髄MRI所見
桑原 茂, 金井純次, 内田秀穂, 田島直也, 税所幸一郎
第26回日本リウマチ・関節外科学会, 1998, 10, 大津.
- 58) リウマチ膝に対する (press-fit)セメント非使用人工膝関節の中期成績—セメント使用との比較—
税所幸一郎, 長田浩伸, 尾田朋樹, 桑原 茂, 田島直也
第26回日本リウマチ・関節外科学会, 1998, 10, 大津.
- 59) 股関節症におけるFalse profile 像での適合性の評価および股関節動態撮影法
松岡知己, 帖佐悦男, 柏木輝行, 坂本武郎, 市原久史, 田島直也
第25回日本股関節学会, 1998, 10, 北九州.
- 60) 人工股関節置換術におけるAcetabular reinforcement ring with hook の使用経験
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 松岡知己, 坂本武郎, 深野木快士
第25回日本股関節学会, 1998, 10, 北九州.

- 61) 診断に難渋したMassive osteolysisの一例
帖佐悦男, 田島直也, 柏木輝行, 松岡知己
第25回日本股関節学会, 1998, 10, 北九州.
- 62) 頻回に骨折をきたした先天性無汗無痛覚症の1例
税所幸一郎, 吉松成博, 長田博伸, 藤本茂紘, 木佐貫篤
第53回国立病院療養所総合医学会, 1998, 10, 金沢.
- 63) 股関節周辺腫瘍切除後の欠損に対する大腿後部皮弁の使用経験
安藤 徹, 田島直也, 帖佐悦男, 川越正一, 蛭原啓文, 神菌 豊,
黒木龍二
第4回宮崎腫瘍治療研究会, 1998, 11, 宮崎.
- 64) Screening and medical examination of low-back pain
N. Tajima, E. Chosa, T. Kashiwagi, M. Matsumoto, S. Kubo, K. Goto
The 12th congress of Western Pacific Orthopaedic Association,
1998, 11, Fukuoka.
- 65) 当科におけるnon-cement-THAの術後成績
安楽喜久, 赤崎幸二, 相良孝昭, 木村 真, 寺本 弘, 金井隆幸
高橋知幹, 武内晴明
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.
- 66) 脛骨高原欠損例に対する人工膝関節置換術の経験
川野彰裕, 金井純次, 津曲孝康, 永井孝文, 内田秀穂, 渡部正一,
桑原 茂
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.
- 67) 鎖骨骨折に対するEnder 釘の使用経験
田口 学, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 仙波 圭,
川谷洋右, 池尻洋史
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.
- 68) 上腕骨近位端骨折に対するEnder 髓内釘の治療成績
金井一男, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 田口 学, 仙波 圭,
川谷洋右, 池尻洋史
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.

69) 当院における頸椎部砂時計腫の手術経験

谷畠 満, 海田博志, 松元征徳, 久保紳一郎, 田島直也
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.

70) 手指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の一例

坂田勝美, 田島直也, 川越正一, 神菌 豊, 黒木龍二, 河野 立,
岡田麻里
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.

71) 母指中手骨に発生した好酸球性肉芽腫症の1例

松浦愛二, 篠原典夫, 高妻雅和, 徳久俊雄, 阿久根広宣, 佐本信彦,
河原勝博, 牟田口滋, 末永賢也, 門内一郎, 小林邦雄
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.

72) 股関節のarthro MRIについて

坂本武郎, 帖佐悦男, 柏木輝行, 松岡知己, 益山松三, 深野木快士,
市原久史, 田島直也
第96回西日本整形・災害外科学会, 1998, 11, 鹿児島.

73) 有限要素法を用いた腰椎固定術の解析

鳥取部光司, 田島直也, 帖佐悦男, 後藤啓輔
第25回日本臨床バイオメカニクス学会, 1998, 11, 宮崎.

74) 脳性麻痺児に対する下腿三頭筋延長術後の歩行時重心動揺性の変化

渡邊信二, 川越正一, 田島直也, 山口和正, 柳園賜一郎
第25回日本臨床バイオメカニクス学会, 1998, 11, 宮崎.

75) 自己回帰要素波解析によるヒト直立姿勢の重心動揺の加齢的变化

田辺龍樹, 田島直也, 平川俊一, 佐藤謙助
第25回日本臨床バイオメカニクス学会, 1998, 11, 宮崎.

76) 当院看護職員における腰痛の実態と腰痛体操の効果

松元征徳, 田島直也, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 作 良彦
第6回日本腰痛研究会, 1998, 11, 宮崎.

77) 高校生サッカー選手のメディカルチェック

樋口潤一, 田島直也, 黒木俊政, 園田典生, 山本恵太郎, 野中隆史
第11回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 1998, 12, 福岡.

- 78) 当科におけるサッカーによるスポーツ傷害例の検討
園田典生, 帖佐悦男, 樋口潤一, 河野 立, 松岡 篤, 田島直也
第11回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 1998, 12, 福岡.
- 79) 腓骨筋腱脱臼に対する Kelly変法の2例
市原久史, 帖佐悦男, 松岡知己, 坂本武郎, 益山松三, 田島直也,
戸田 勝, 押川紘一郎, 中村誠司, 矢野浩明
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 80) 自家骨移植併用セメントレス人工股関節再置換術の経験
川野彰裕, 渡部正一, 桑原 茂
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 81) 脛骨高原骨折術後の外反膝変形に対する自家膝蓋骨移植術の経験
石田康行, 渡辺 雄, 工藤勝司, 本部浩一
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 82) 屍体腎移植成功後、低リン血症性骨軟化症を来した症例について
永吉洋次, 岩切清文
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 83) 脳性麻痺児股関節脱臼に対する股関節周囲筋解離術の有効性—重度伸展緊張型四肢麻痺について—
江夏 剛, 山口和正, 柳園賜一郎, 岡本義久
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 84) 陳旧性母指MP関節橈側副韌帯損傷の2症例
岡田麻里, 神菌 豊, 川越正一, 黒木龍二, 坂田勝美, 田島直也
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 85) 骨外軟骨腫症の一例
安藤 徹, 小牧一麿, 佐藤隆三, 神菌 豊, 川越正一, 黒木龍二,
岡田麻里, 坂田勝美, 田島直也
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 86) 乾癬性関節炎が疑われる1例
深野木由姫, 市原正彬, 木村千巳, 田島直也
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.

- 87) 鎖骨遠位端骨折及び肩鎖関節脱臼に対するWolter clavicular plate の使用経験
黒田 宏, 福元洋一, 山本恵太郎
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 88) 胸椎部黄靭帯骨化症を伴った頸胸椎広範囲後縦靭帯骨化症における治療経験
河原勝博, 徳久俊雄, 高妻雅和, 阿久根広宣, 佐本信彦, 松浦愛二,
牟田口滋, 末永賢也, 門内一郎, 小林邦雄
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 89) 低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病にOPLLを合併した一例
猪俣尚規, 田島直也, 作 良彦, 黒木浩史, 渡邊信二
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 90) 硬膜形成術・大後頭孔減圧術を要したRA頸椎症の一例
富里恵美, 田島直也, 久保紳一郎, 後藤啓輔, 村上 弘
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 91) 脊椎・脊髄疾患に対する術中エコーの有効性
村上 弘, 田島直也, 久保紳一郎, 後藤啓輔, 富里恵美
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 92) 環軸椎後方固定術Magerl法における3D-angio CT の有効性
阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 佐本信彦, 松浦愛二, 河原勝博,
末永賢也, 牟田口滋, 門内一郎, 小林邦雄
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 93) 当科に於ける足関節部骨折
長田浩伸, 税所幸一郎, 吉松成博
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 94) 当科における下腿遠位端骨折の治療経験
池尻洋史, 谷脇功一, 木屋博昭, 弓削孝雄, 金井一男, 田口 学,
仙波圭, 川谷洋右
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.
- 95) 当科における足関節果部骨折の治療成績
濱中秀昭, 長鶴義隆, 大田博人, 本部浩一
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.

96) 保存療法にて足関節症を来した脛腓骨遠位端骨折の2例

有住裕一, 田辺龍樹, 矢野浩明, 黒沢 治, 戸田 勝
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.

97) 当院における足関節果部骨折に対する手術療法の検討

吉野 光, 前原東洋, 吉永一春, 中川雅裕
第37回宮崎整形外科懇話会, 1998, 12, 宮崎.

◆講 演

1) 成長期のスポーツ障害

田島直也
第26回北陸骨傷研究会, 1998, 2, 金沢.

2) スポーツ外傷・障害と痛み

田島直也
第12回宮崎痛みの研究会, 1998, 2, 宮崎.

3) プライマリ・ケアにおけるリハビリテーションの実際

田島直也
平成9年度宮崎県医師会地域医療推進医師研修会, 1998, 3, 宮崎.

4) 脊椎のスポーツ外傷と障害

田島直也
第38回香川県整形外科集談会および講演会, 1998, 3, 高松.

5) 脊椎のスポーツ障害

田島直也
西日本脊椎研究会第50回記念講演会－脊椎外科21世紀に向かって,
1998, 10, 小郡.

6) 中高年のスポーツと健康－スポーツと膝・腰のいたみ

田島直也
市民公開講座(第9回日本臨床スポーツ医学会学術集会主催),
1998, 11, 札幌.

7) 腰痛について

田島直也

宮崎県西郷村講演会, 1998, 12, 西郷.

8) 運動障害と予防

黒木俊政

平成9年度厚生省健康運動指導者育成研修会, 1998, 1, 宮崎.

9) スポーツ障害の予防と手当て—中高年の場合—

黒木俊政

平成9年度宮崎県主催V D U作業管理及びレクリエーション時の安全管理講習会, 1998, 1, 宮崎.

10) 身体障害者福祉関係職員に必要な医学的基礎知識

黒木俊政

平成9年度療護施設長会議及び職種別生活指導員研修会,
1998, 1, 清武.

11) 成長期および中高年のスポーツ傷害—子の親として必要な知識そして中高年の傷害予防の2つの観点から

黒木俊政

平成9年度西諸県地区連絡協議会健康教室, 1998, 3, 小林.

12) 肉離れの対処法

黒木俊政

M R T放送スポーツカウンセリング, 1998, 4, 宮崎.

13) 膝靭帯損傷 1—膝前十字靭帯の解剖と機能—

黒木俊政

M R T放送スポーツカウンセリング, 1998, 4, 宮崎.

14) 膝靭帯損傷 2—膝前十字靭帯損傷の治療法—

黒木俊政

M R T放送スポーツカウンセリング, 1998, 4, 宮崎.

15) メディカルチェック 1—宮崎県高校スポーツ選手の下肢筋力からみた課題—

M R T放送スポーツカウンセリング, 1998, 4, 宮崎.

黒木俊政

- 16) メディカルチェック 2-宮崎県高校スポーツ選手の血液検査からみた課題-
黒木俊政
MR T放送スポーツカウンセリング, 1998, 5, 宮崎.
- 17) 足関節捻挫 1-分類と治療法-
黒木俊政
MR T放送スポーツカウンセリング, 1998, 5, 宮崎.
- 18) 足関節捻挫 2-手軽な重傷度判断法と応急処置-
黒木俊政
MR T放送スポーツカウンセリング, 1998, 5, 宮崎.
- 19) 肩関節脱臼-反復性肩関節脱臼にならないために-
黒木俊政
MR T放送スポーツカウンセリング, 1998, 5, 宮崎.
- 20) 人体解剖学の基礎知識
黒木俊政
平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 5, 清武.
- 21) 身体障害者福祉用具の基礎知識
黒木俊政
平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 5, 清武.
- 22) 四肢切断・関節離断
黒木俊政
平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 6, 清武.
- 23) ジュニア期における正しいトレーニングについて
黒木俊政
平成10年度宮崎県運動部活動外部指導者研修会, 1998, 6, 宮崎.
- 24) スポーツ医学の活用-スポーツ傷害の治療と予防、そして競技力向上の鍵は?-
黒木俊政
平成10年度高体連西都・児湯支部高等学校体育研究会, 1998, 7,
高鍋.

- 25) 義肢、装具、自助具の種類と活用
黒木俊政
平成10年度障害者職業生活相談員資格認定講習会, 1998, 8, 都城.
- 26) 成長期のスポーツ傷害とその予防
黒木俊政
平成10年度佐土原町スポーツ少年団研修会, 1998, 8, 佐土原.
- 27) 脊髄損傷
黒木俊政
平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 9, 清武.
- 28) ジュニア期のスポーツ傷害の知識と対処法
黒木俊政
平成10年度清武町スポーツ少年団研修会, 1998, 10, 清武.
- 29) 電動車いすの種類とその適応
黒木俊政
平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 10, 清武.
- 30) 重度肢体不自由者の病因とその理解—その1—脳性麻痺、頸髄損傷
黒木俊政
平成10年度宮崎県ガイドヘルパー事業, 1998, 11, 清武.
- 31) 重度肢体不自由者の病因とその理解—その2—進行性筋ジストロフィー、ALS
黒木俊政
平成10年度宮崎県ガイドヘルパー事業, 1998, 11, 清武.
- 32) 療護施設における医療の限界とその適応
黒木俊政
平成10年度療護施設看護婦等研修会, 1998, 12, 清武.
- 33) 運動障害と予防
黒木俊政
平成10年度厚生省健康運動指導者育成研修会, 1998, 12, 宮崎.

- 34) 機能的解剖学
樋口潤一
健康運動実践指導者養成講習会, 1998, 1, 宮崎.
- 35) 内科的救急処置
樋口潤一
健康運動実践指導者養成講習会, 1998, 1, 宮崎.
- 36) 外科的救急処置
樋口潤一
健康運動実践指導者養成講習会, 1998, 1, 宮崎.
- 37) サッカーで起こるケガとその対処法
樋口潤一
日本体育協会準指導者養成講習会, 1998, 1, 宮崎.
- 38) ラット膝関節メカノレセプターに関節不動化が及ぼす影響
樋口潤一
コスモス会, 1998, 6, 宮崎.
- 39) 機能的解剖学
樋口潤一
健康運動実践指導者養成講習会, 1998, 12, 宮崎.
- 40) 内科的救急処置
樋口潤一
健康運動実践指導者養成講習会, 1998, 12, 宮崎.
- 41) 救急処置
樋口潤一
日本サッカー協会公認少年少女指導者講習会, 1998, 12, 宮崎.
- 42) 宮崎地区における障害児の療育体制について
山口和正
社民党中央地区議員団会議学習会講義, 1998, 宮崎.

43) 障害児の整形外科的側面

山口和正

こども療育センター ふれあい保育体験, 1998, 宮崎.

44) 脳性麻痺児の家庭療育・手術

山口和正

徳田脳神経外科院内研修会, 1998, 鹿屋.

45) 問題を持つ子どもへの理解とその対応

山口和正

第15回乳児施設職員研修会, 1998, 宮崎.

46) 肢体不自由Ⅱ 障害児の生涯に渡る諸問題

山口和正

平成10年度身体障害者福祉担当者等研修会, 1998, 宮崎.

47) 障害の見方・考え方ー脳性発達障害を中心にー

山口和正

平成10年度宮崎県特殊教育連盟肢体不自由教育研究部会,
1998, 宮崎.

48) 重度心身障害児(者)の医療面でのサポート

山口和正

宮崎重度心身障害児(者)を守る会 第一回研修会, 1998, 宮崎.

編集後記



この度、同門会誌の編集委員を仰せつかりました。

今まで、前任者の押川先生がご苦勞されて立派な会誌を発行されておりましたので、私に務まるのか不安ですが、私なりにいいものを目指して頑張りたいと思っております。

ただ、私は、同門会誌は格式ばった高尚なものである必要はないと考えております。同門会が同門会員の親睦を目的にしているように、同門会誌は同門会員の親睦や意思疎通を図るためのものであり、会員の皆様が自由な発想で自由な意見を述べる場であると考えます。何か書きたいものが思い浮かんだ時、人生の喜びや悩みを文章にしたい時、美しいものを見つけた時、きれいな風景を人に伝えたい時。いつでもいいです。同門会誌の原稿は年間を通していつでも受け付けています。教室宛でも私のE-mailアドレス (fukuchan@sun-net.ne.jp) でも結構です。

今回、試みとして、新しい企画を二つ提案致しました。一つは、「認定医試験を終えて」と題して、今年、認定医に合格した先生方に感想や勉強法等を書きいただきました。これから認定医を目指す先生方の参考にさせていただければ幸いです。もう一つは「夫を語る」と題して奥様から見た先生方の日常を語っていただくものです。ただ、今回初めてですので、奥様にも書きにくい面があると思い、一問一答形式にしました。将来は先生方だけではなく、奥様方にも自由に投稿していただければと思っています。

お蔭様で今回も数多くの投稿をいただきました。どれも力作揃いです。同門会誌は皆様の投稿によって支えられております。今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

最後に、動かない編集長の手足となって働いてくれた川野彰裕先生、実際に会誌を作ってくれた教室の温水さんに、この場を借りて深く感謝致します。

平成11年12月



福田 健二

宮崎医大整形外科学教室

同 門 会 誌

発 行 日 平成11年12月

発 行 者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会

編集責任者 福 田 健 二

印 刷 所 身体障害者授産施設やじろべえ